

IV 市民意識調査に基づく「指標の現状（値）」

1 指標の現状（値）

第1節 連携型地域社会の形成

第1項 市民と行政の協働を推進します

めざしたい将来像：

「市民の自立」「市民や事業者などと行政の対等な関係」をめざす協働のまちづくりを推進し、安全・安心な豊かで、活力のある郷土愛に満ち、市民みんなが誇りに思える”ふるさとまつど”を実現します。そのため、支所など地域拠点の機能を高め、市民同士、市民と行政、行政組織同士などの連携を進めます。また、地域活動（町会・自治会活動、地区社会福祉協議会の活動）、NPO活動、ボランティア活動のそれぞれの活性化を図ります。

指標

市民活動（地域活動、NPO活動、ボランティア活動など）に参加している人の割合

（1）指標の説明

市民が、企業、NPO法人、ボランティア団体、町会、自治会などの一員として社会に貢献するという意志をもち、積極的に地域活動に参加している状況を把握するため、市民活動に参加している人の割合を指標とします。

（2）設問

この指標は、次の設問により地域を限定すると共に、積極性を加味し、直接的に聞いています。「社会・行動」

Q6 あなたは、市内で地域に貢献する活動を行っている団体、組織やグループの活動に、日頃積極的に参加していますか。次の中で、参加しているものをお答え下さい。（あてはまるもの全てに○）

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1 町会・自治会 | 6 企業による奉仕活動 |
| 2 ボランティア団体 | 7 有志・仲間との奉仕活動 |
| 3 PTA | 8 その他（ ） |
| 4 NPO法人（特定非営利活動法人） | 9 積極的に参加しているものはない |
| 5 子ども会育成会 | |

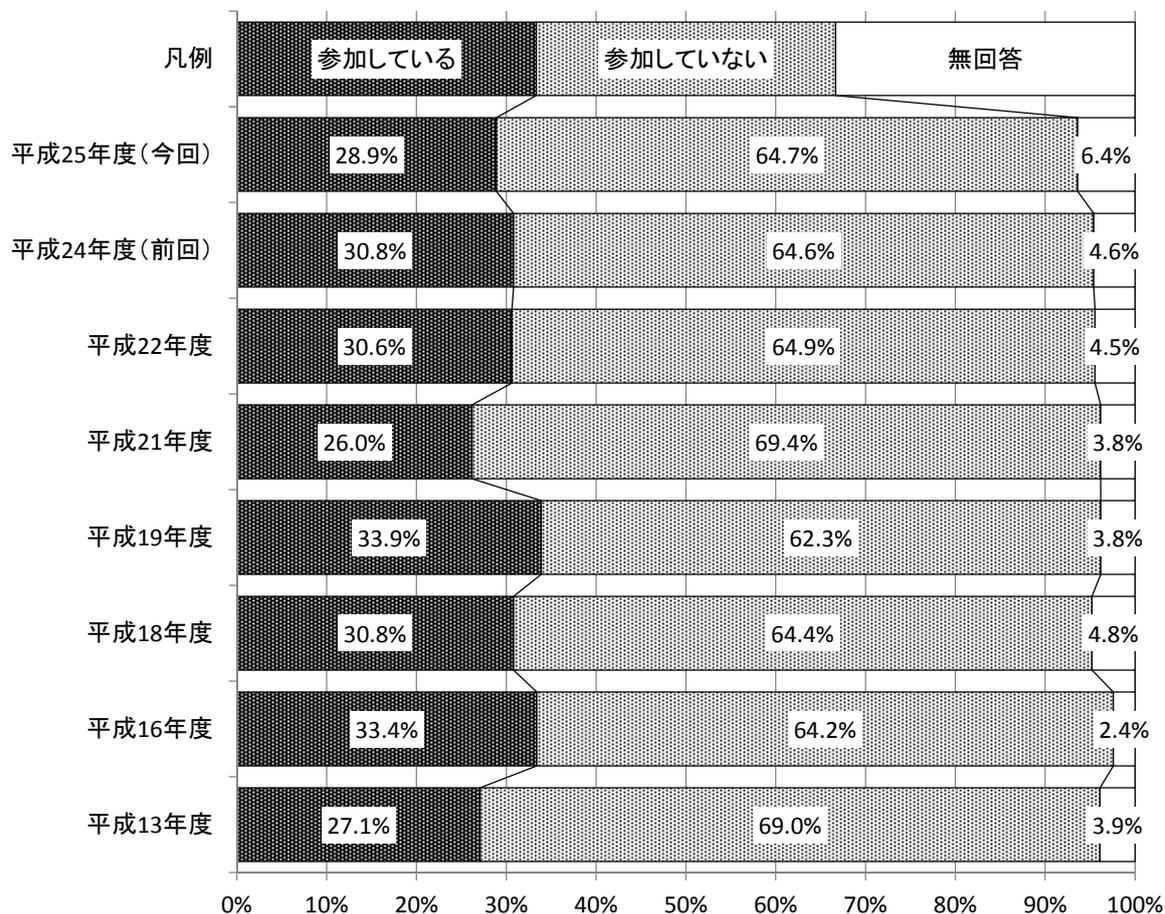
（3）指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度
参加している	27.1%	33.4%	30.8%	33.9%	26.0%	30.6%	30.8%	28.9%

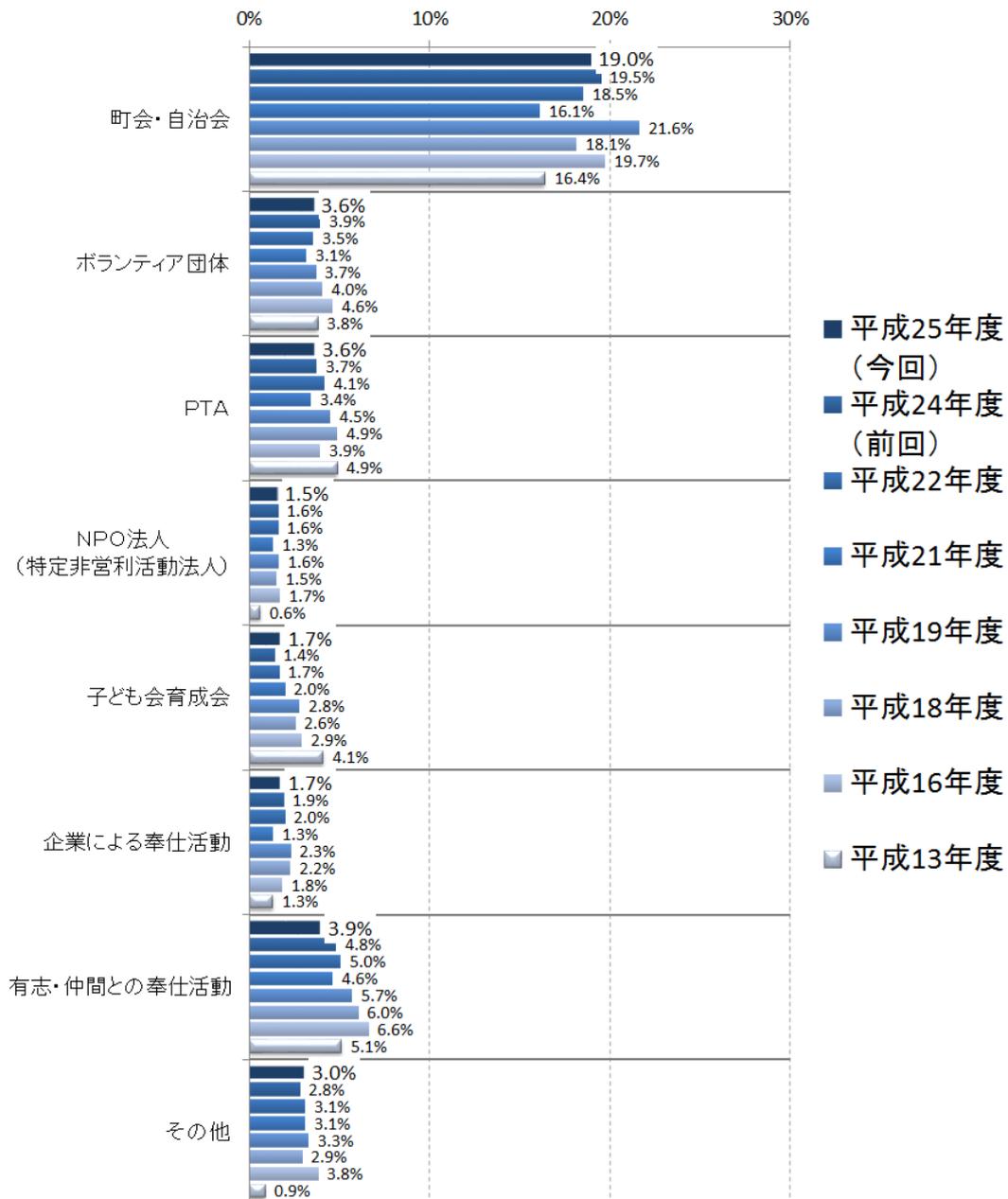
(4) 指標の分析

☆**地域活動への参加者はわずかに減っており、6割以上は「参加していない」としています。**

市内で地域に貢献する活動を行っている団体、組織やグループの活動に、日頃積極的に“参加している”という回答は28.9%と前回調査よりわずかに低い回答の割合となっています。全体では“参加していない”(64.7%)という回答が6割以上を占め、参加経験者を大きく上回っています。

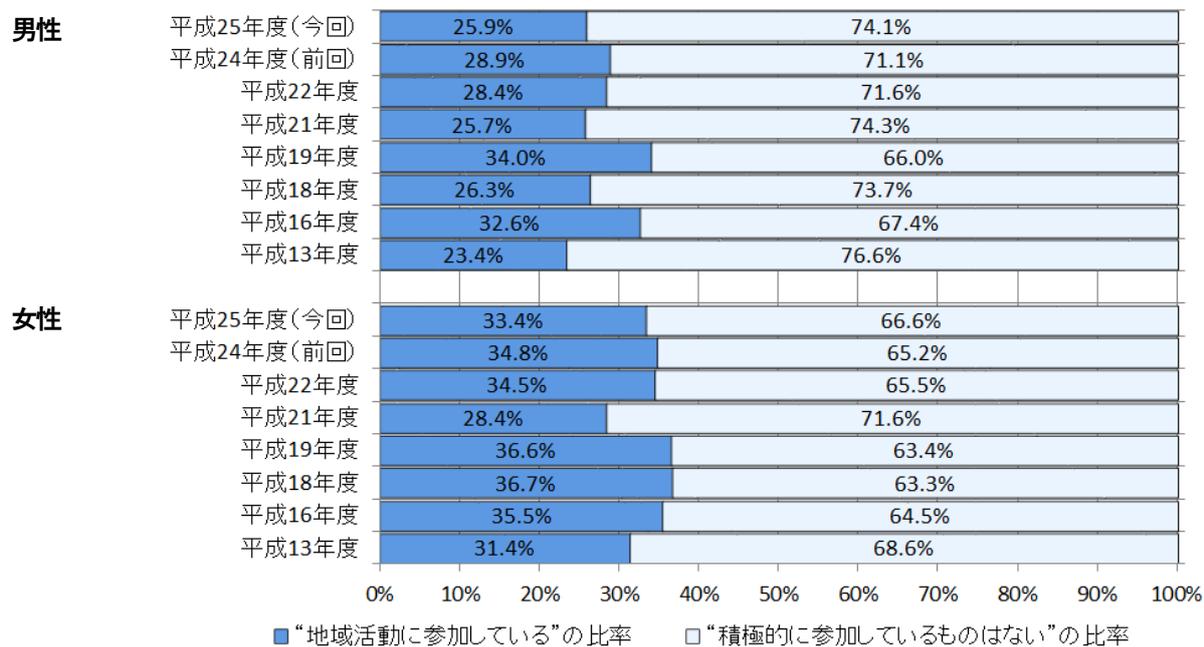


参加している活動としては、“町会・自治会”が 19.0%と多く、前回調査に比べると“子ども会育成会”がわずかながら回答の割合が増えています。



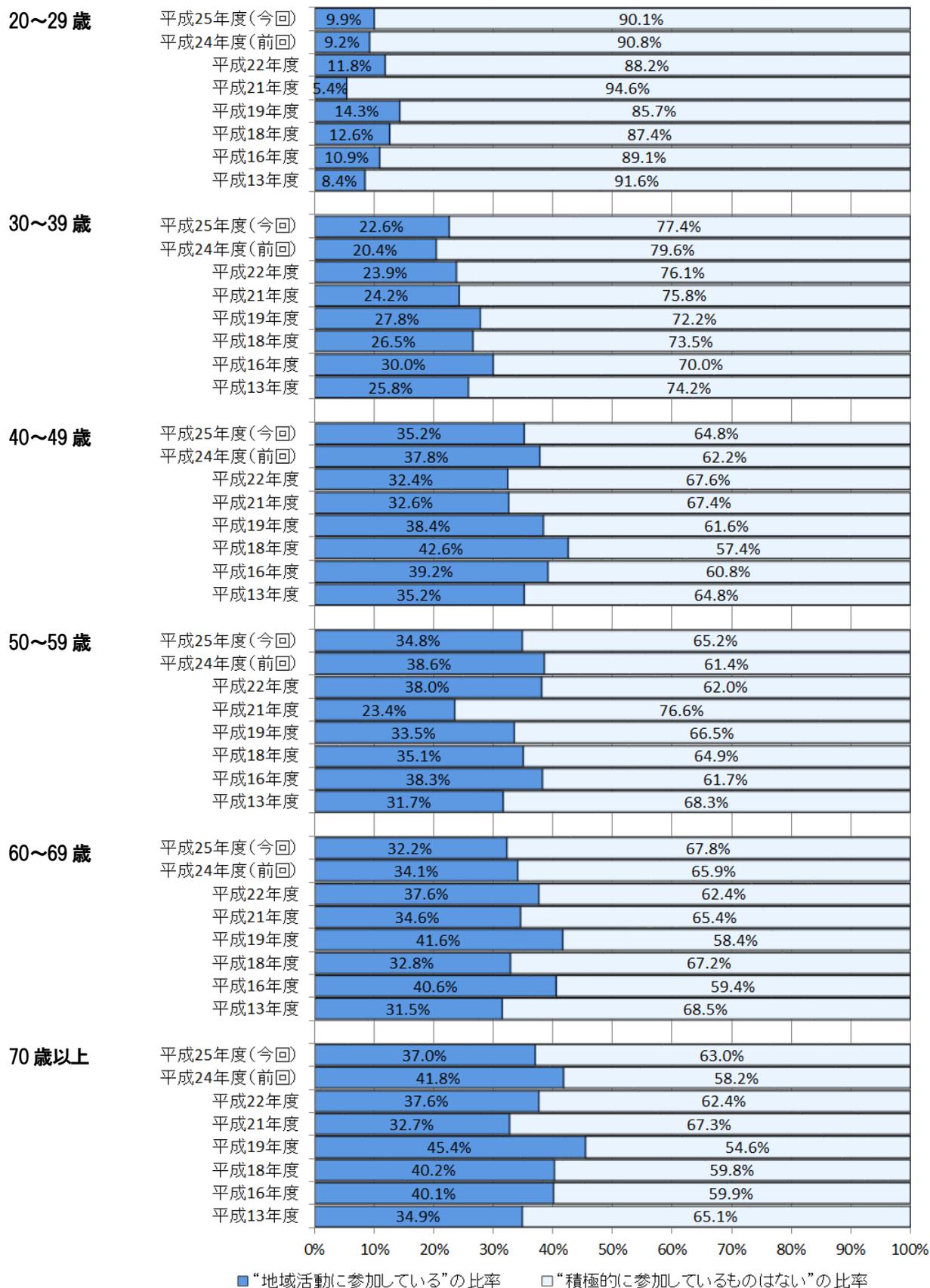
性別で見ると、女性の方が参加している割合が高くなっていますが、男女とも前回調査に比べ若干割合が減少しています。

【地域活動×性別】



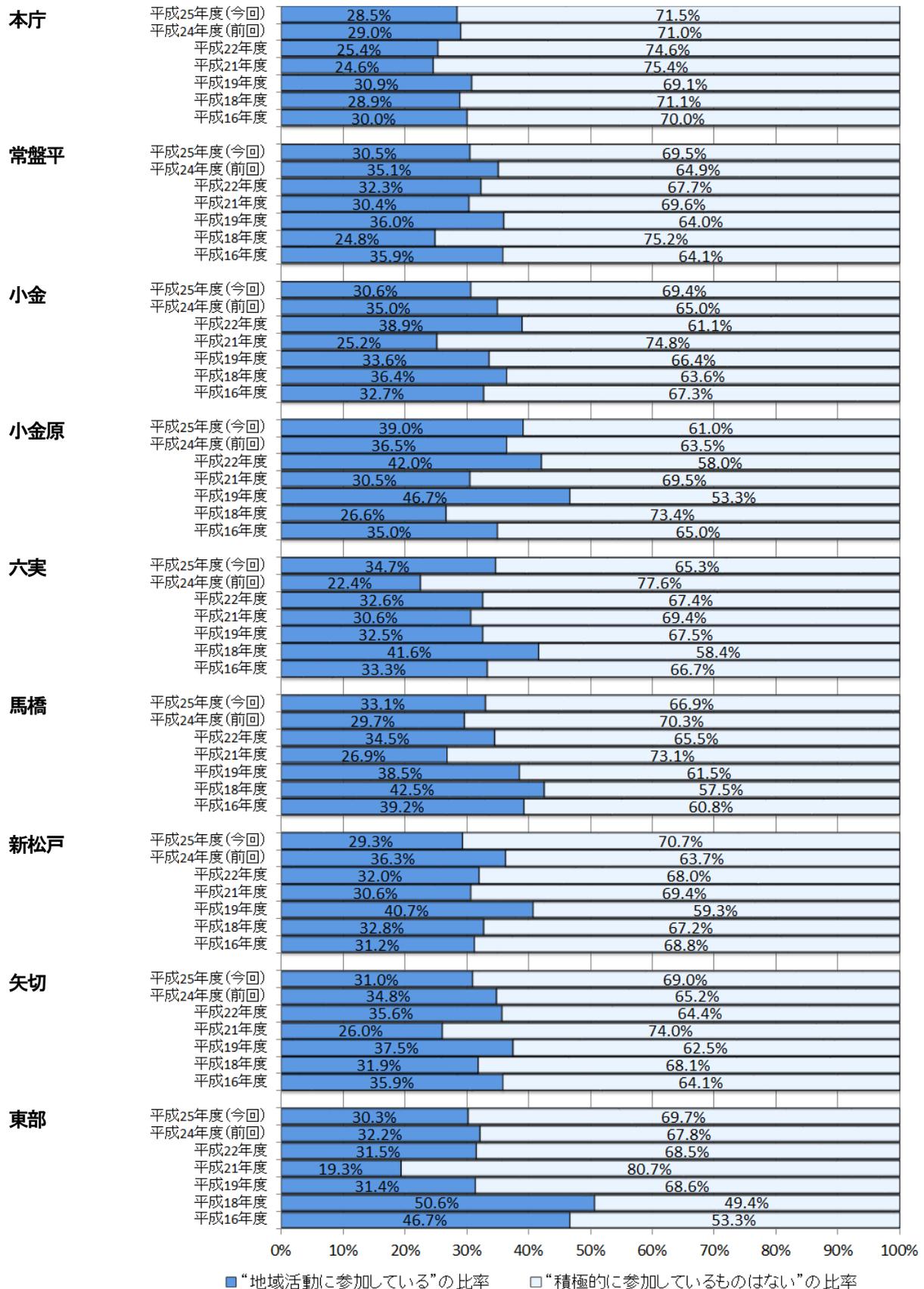
年齢別でみると、30歳代で参加している割合が前回調査に比べ増えています。

【地域活動×年齢】



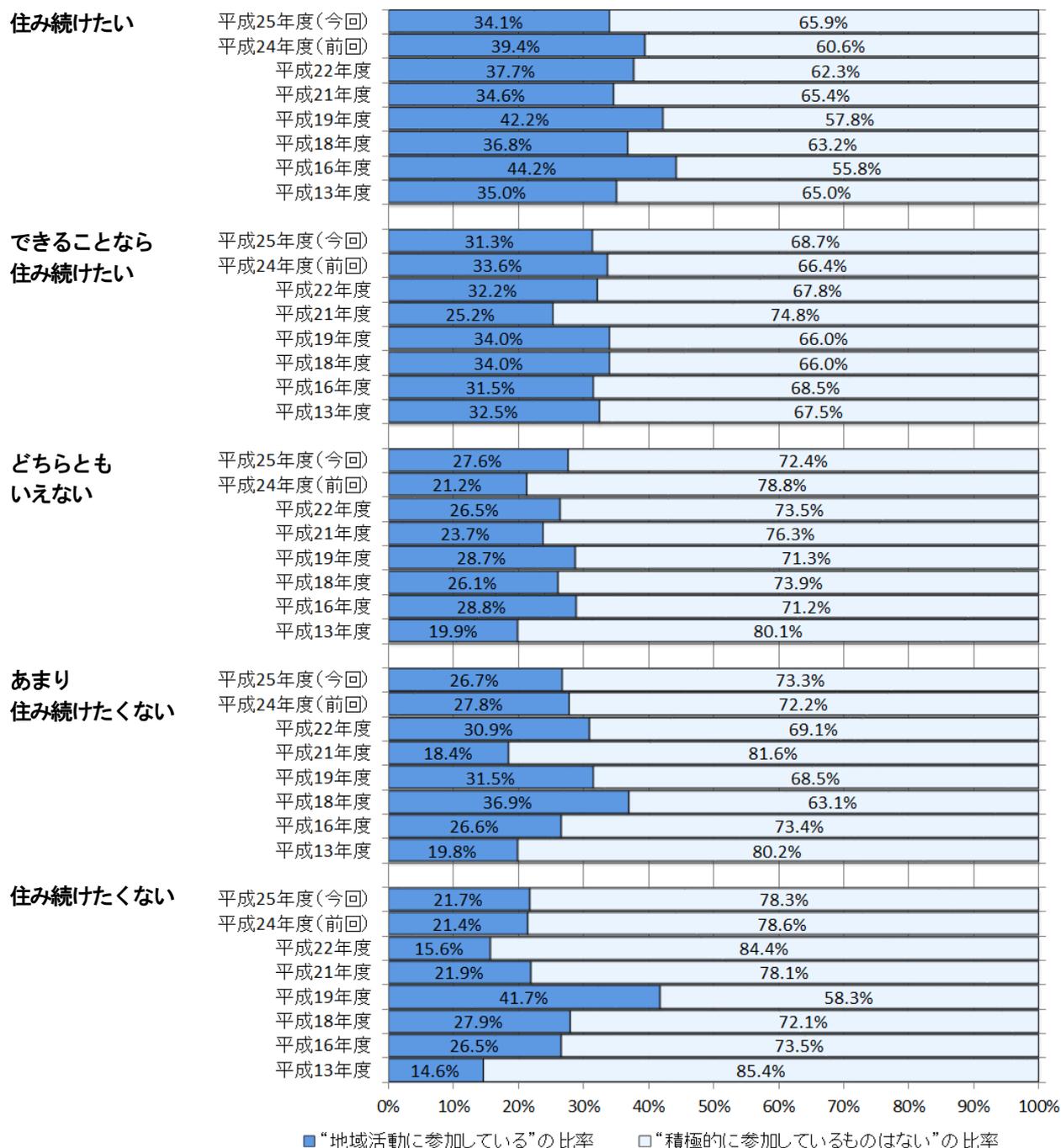
地区別でみると、全ての地区で地域活動に参加している割合は概ね3割前後となっています。

【地域活動×地区】



定住意向との関係においても、地域活動に参加している割合は「住み続けたい」・「できることなら住み続けたい」と回答している人では3割を上回る結果となり、「住み続けたくない」・「あまり住み続けたくない」と回答している人に比べ高くなっています。

【地域活動×定住意向】



第1節 連携型地域社会の形成

第2項 一人ひとりの人権が尊重される地域社会をつくります

めざしたい将来像：

松戸に住む全ての人が互いに認め合い、多様な形でかかわりあえる「平等で人間性豊かな地域社会」を、自分たちで創り上げることがめざします。そのために、学習・交流など、様々な活動を心掛けます。

指標

身の回りで人権が守られていると思っている人の割合

(1) 指標の説明

差別や偏見などに代表される人権問題は、問題を他人ごととして捉えられがちな傾向や、被害にあった方々が声を出しにくい環境などから、その実態を正確なデータとして捉えることは難しい状況にあります。このことから、身の回りで人権が守られていると思っている人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「社会・態度(認知)」

Q1 あなたの身の回りでは人権が守られていると思いますか。次の中で、人権が守られていないと日頃感じることをお答え下さい。(あてはまるもの全てに○)

- | | | |
|------------|--------------|---------------|
| 1 女性の人権問題 | 4 障害者の人権問題 | 7 患者の人権問題 |
| 2 子どもの人権問題 | 5 同和問題 | 8 その他() |
| 3 高齢者の人権問題 | 6 外国籍市民の人権問題 | 9 人権問題は特にならない |

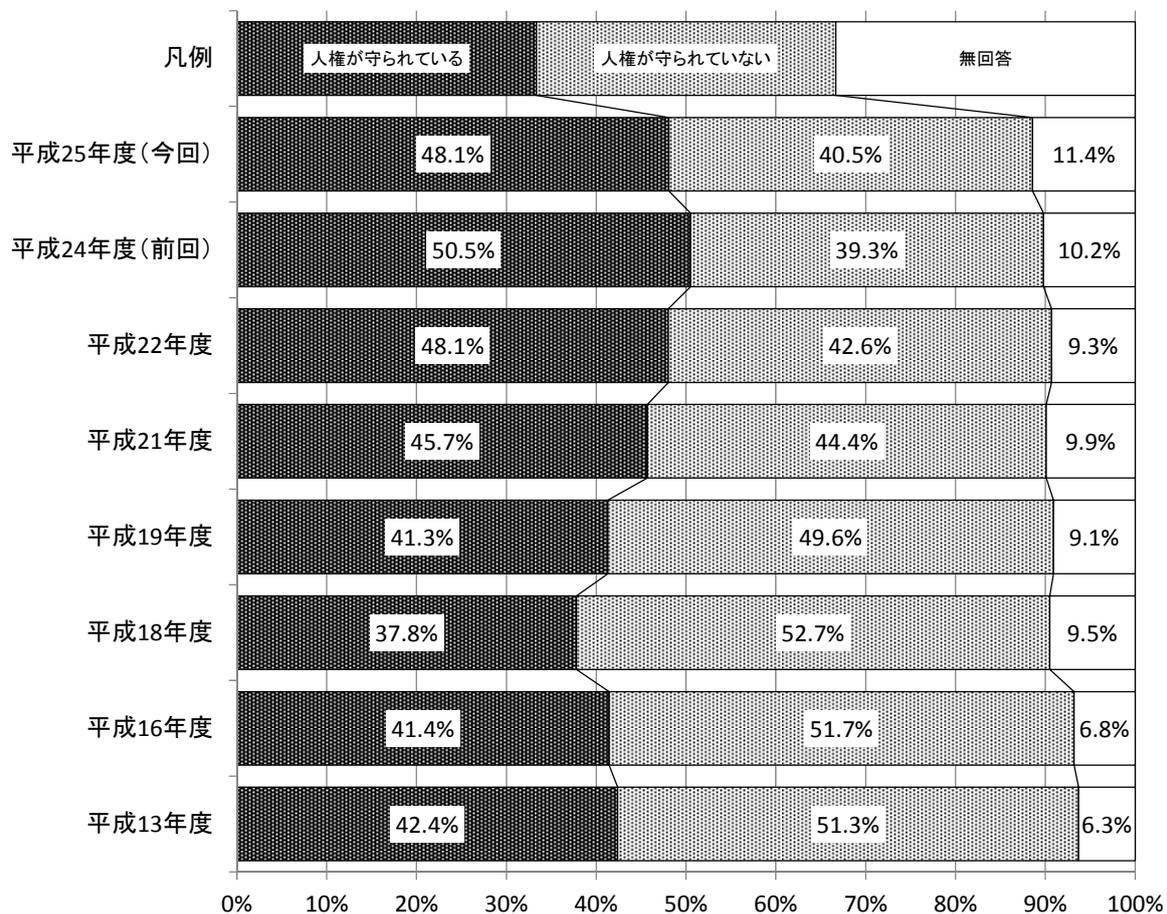
(3) 指標の現状

	平成13年度	平成16年度	平成18年度	平成19年度	平成21年度	平成22年度	平成24年度	平成25年度
人権問題は特にならない	42.4%	41.4%	37.8%	41.3%	45.7%	48.1%	50.5%	48.1%

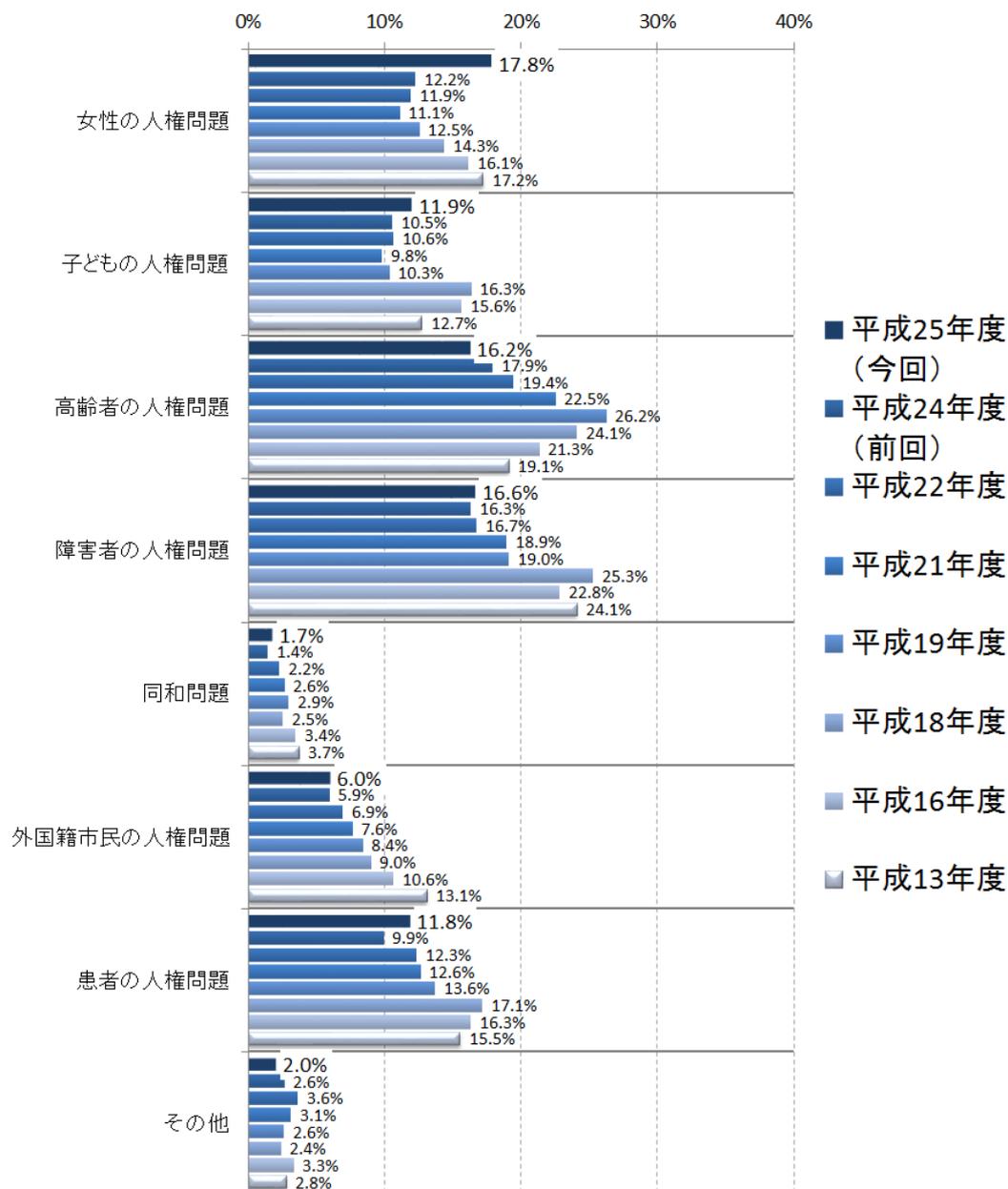
(4) 指標の分析

☆約半数は人権が守られていると評価しているものの、前回調査に比べやや減少しています。

“人権が守られている”との回答は、平成18年以降高まっていますが、今回の調査では48.1%と前回調査(50.5%)に比べ2.4ポイント減少しています。

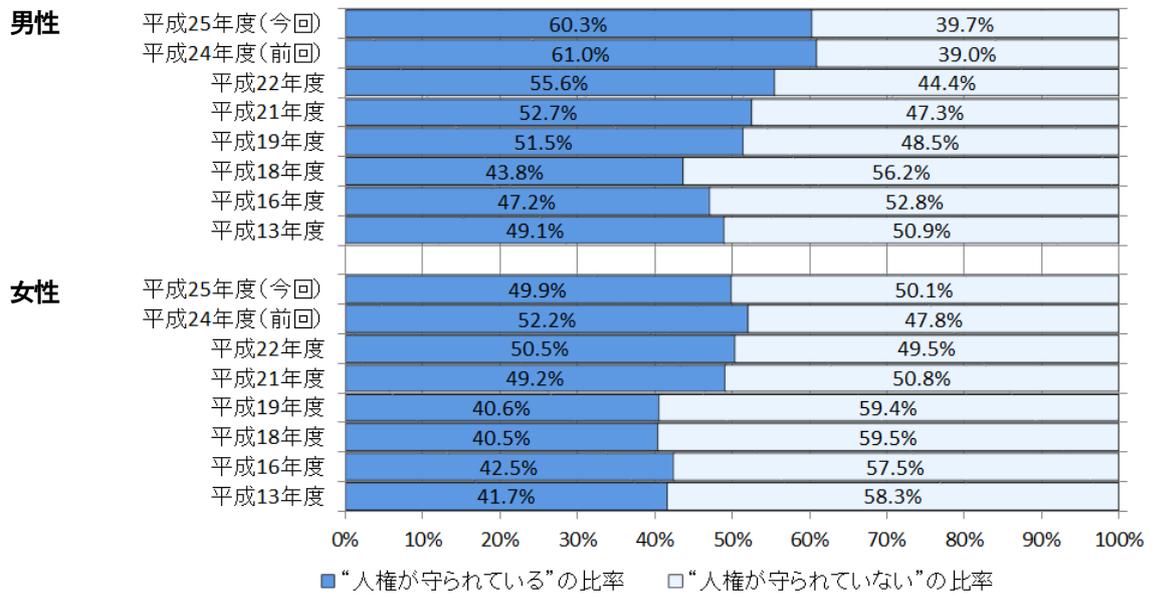


人権が日頃守られていないと感じることとしては、“女性の人権問題”(17.8%)と“障害者の人権問題”(16.6%)への回答が多くなっています。今回の調査では“女性の人権問題”(17.8%)について、前回の調査(12.2%)と比べ回答の割合が高くなっています。



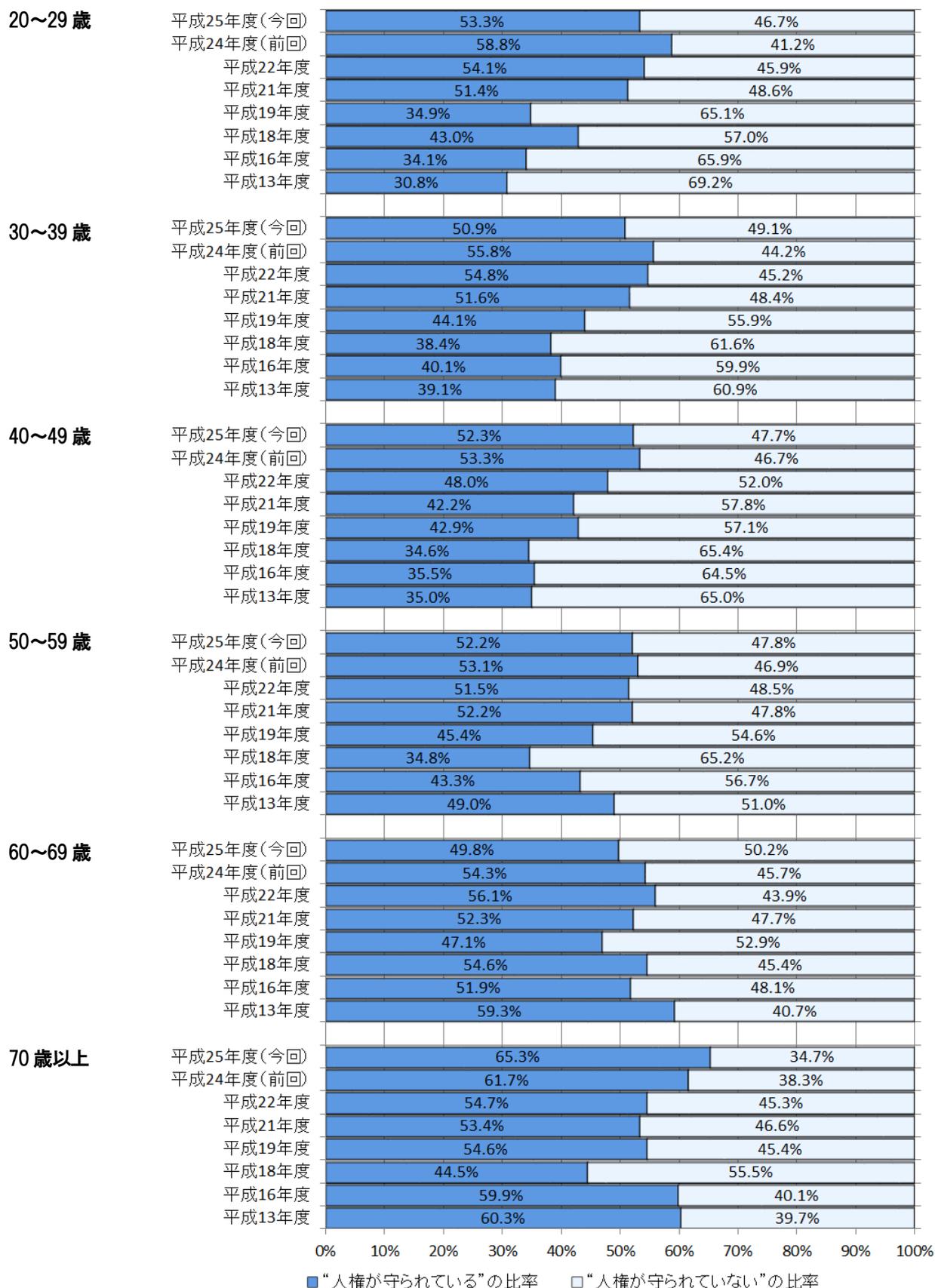
性別で見ると、「人権が守られている」との意識は、前回調査と同様に男性が高く、6割を超えています。

【人権問題×性別】



年齢別でみると、「人権が守られている」との意識が、60歳代を除く全ての年代で5割を超えています。70歳以上では65.3%と6割を超え、最も高くなっています。

【人権問題×年齢】



第1節 連携型地域社会の形成

第3項 男女共同参画の地域社会をつくります

めざしたい将来像：

男女がお互いに相手の人権を大切に思い、ともに責任を分かち合い、個性や能力をフルに発揮できるまちをめざします。それは、男女が対等なパートナーとして、いろいろな分野に参画できるまちです。

指標

固定的性別役割分担を支持しない人の割合

(1) 指標の説明

固定的な男女の役割意識が払拭されていくことで、家庭環境、社会環境が改善され、性別に係わらず役割が今以上に選択できるようになると考えられます。そこで、固定的性別役割分担を支持しない人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・態度(認知)」

Q2 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考え方に同感するほうですか、それとも同感しないほうですか。(1つに○)

- | | |
|-------------|-----------|
| 1 同感するほう | 3 同感しないほう |
| 2 どちらともいえない | 4 わからない |

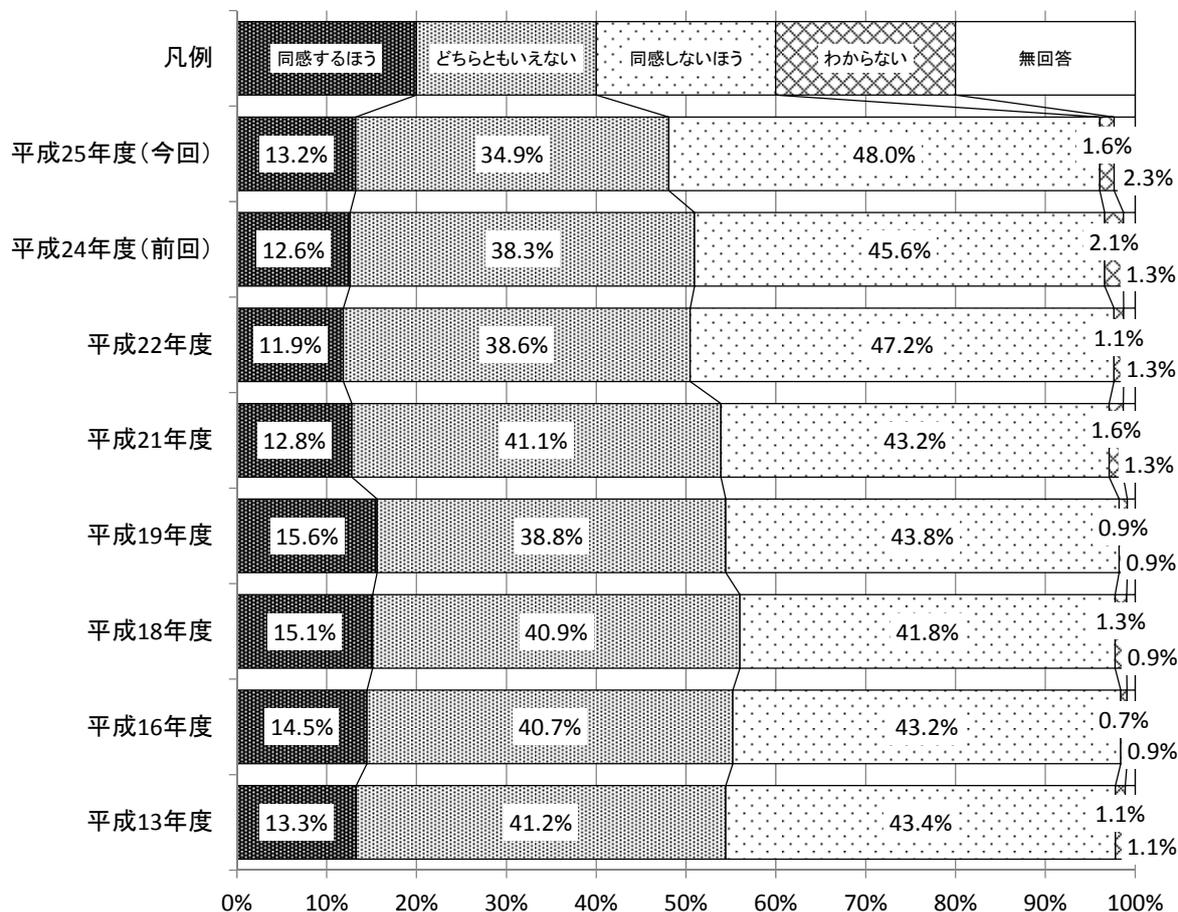
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度
同感しないほう	43.4%	43.2%	41.8%	43.8%	43.2%	47.2%	45.6%	48.0%

(4) 指標の分析

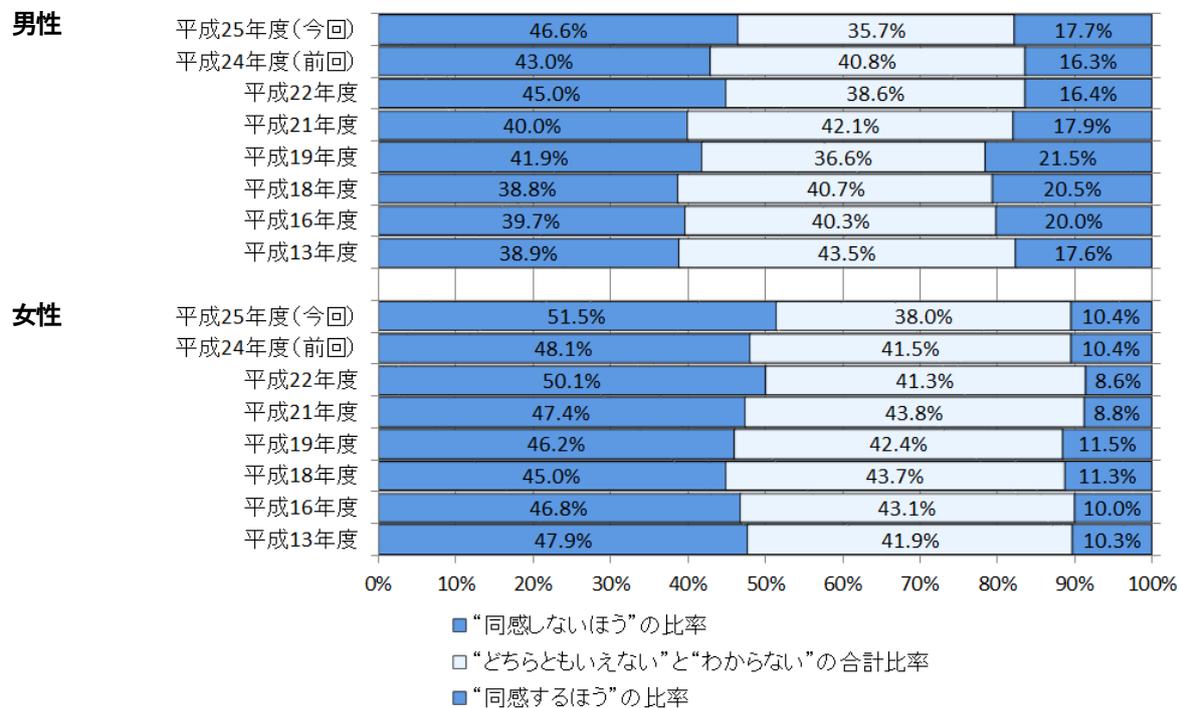
☆性別による役割固定を支持しない人は増加しています。

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「同感しないほう」という回答は、今回の調査では45.6%から48.0%と増加しています。一方で「同感するほう」という回答も、今回の調査ではわずかに増えています。



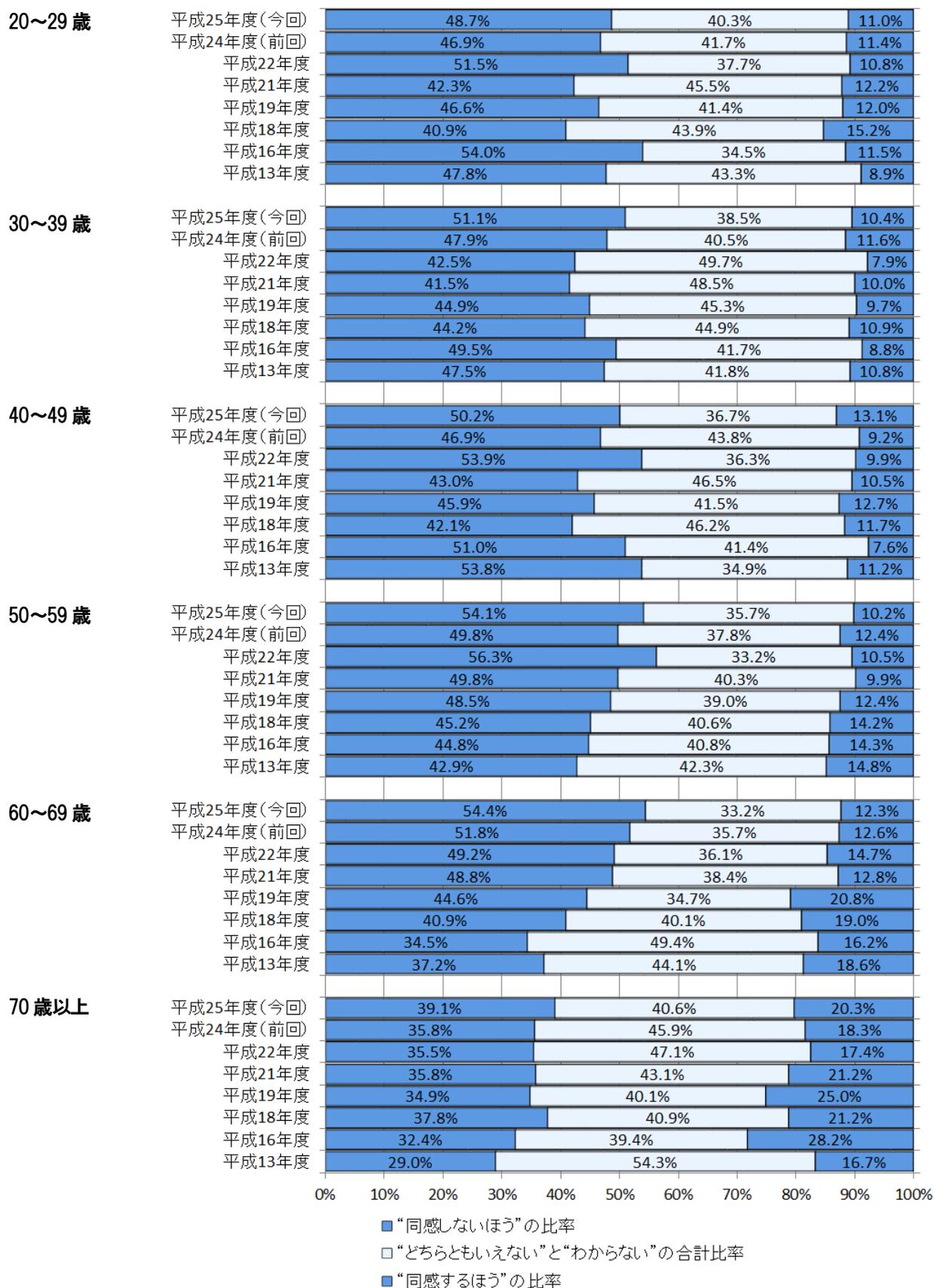
性別で見ると、前回調査と同様に男女とも“同感しないほう”の割合が高く、また男性(46.6%)より女性(51.5%)の方が割合が高くなっています。

【性別による役割×性別】



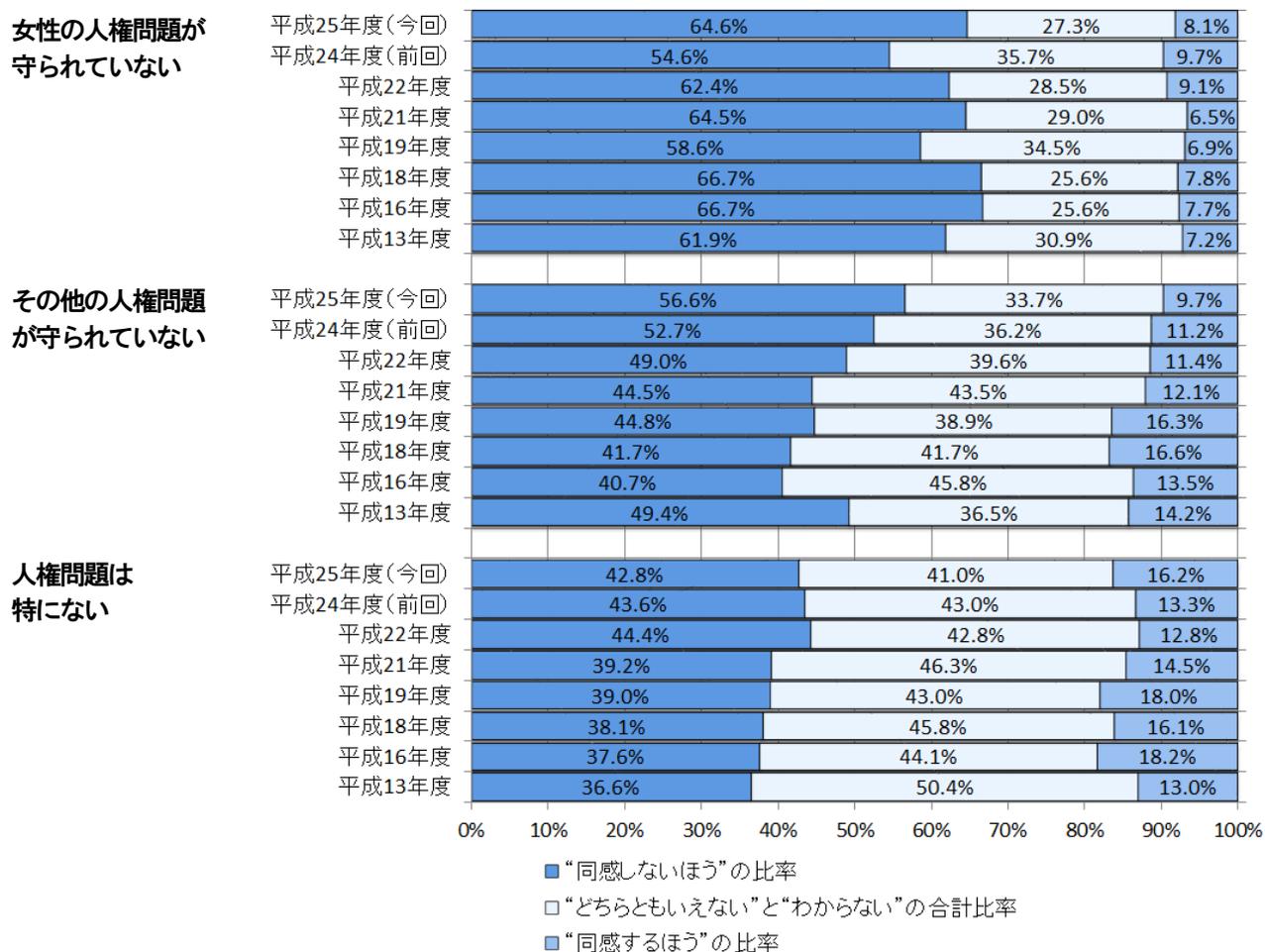
年齢別にみると、“同感しないほう”の割合が60～69歳で54.4%と最も高くなっています。次いで50～59歳で54.1%、30～39歳で51.1%となっています。

【性別による役割×年齢】



人権問題への認識別でみると、“同感しないほう”の割合は、女性の人権問題が守られていないと回答している人で最も高くなっています。前回調査と同様に男女共同参画に係る問題が、女性の人権と密接に結びついた問題として意識されていると考えられます。

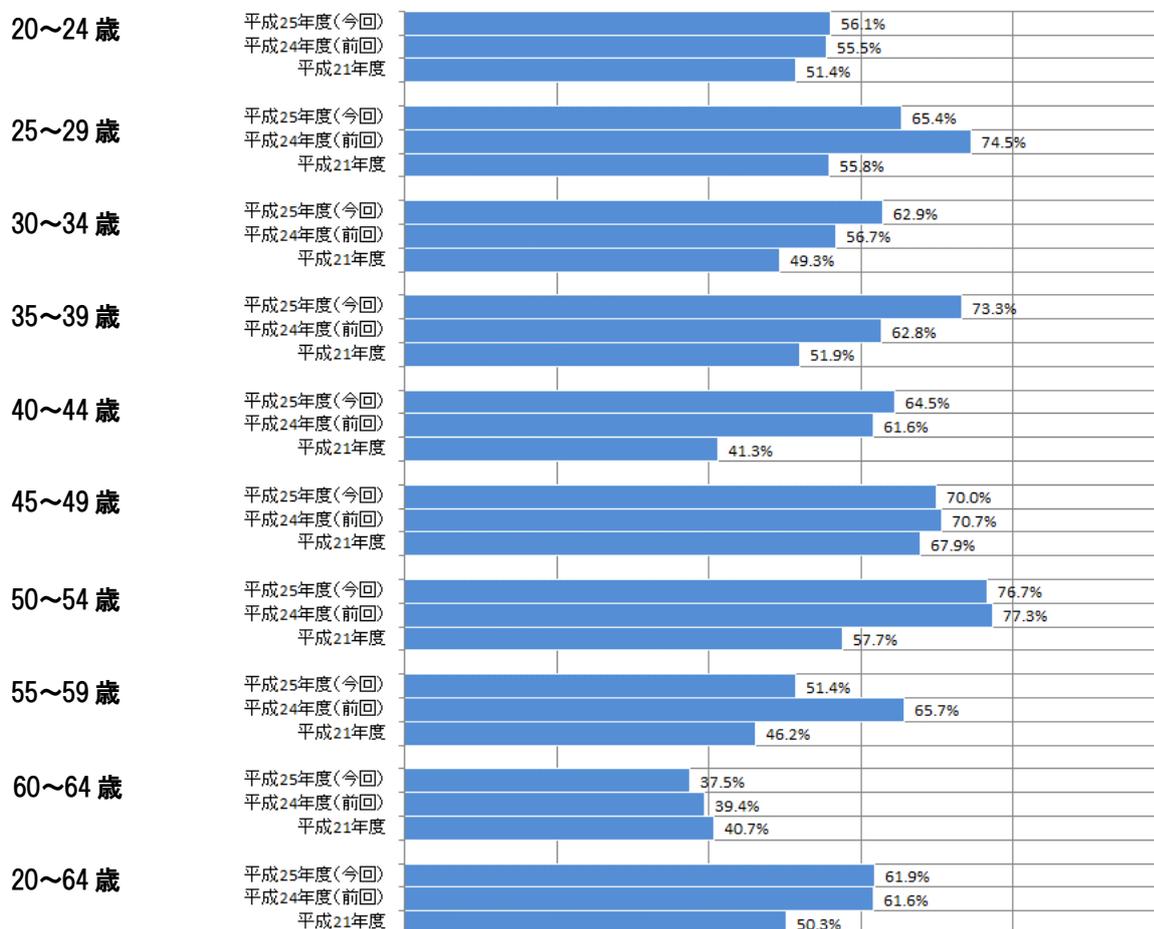
【性別による役割×人権問題の認識】



(4) 指標の分析

☆20～65歳未満の女性の就業割合は6割で、半数以上の人が就業しています。

年齢別にみると、女性の就業割合は50～54歳が76.7%と最も高く、次いで35～39歳(73.3%)、45～49歳(70.0%)となっています



第2節 豊かな人生を支える福祉社会の実現

第1項 健康に暮らすことができるようにします

めざしたい将来像：

自らの健康に関心を持ち、社会参加することを通して、一人ひとりが目的を持った生きがいのある暮らしを生み出します。

指標

生きがい感を持っている人の割合

(1) 指標の説明

生涯にわたり、その意欲や能力に応じて地域活動や就労等の社会参加の機会をもち、年齢や身体状況に係わりなく、いつでも心のほりや生きがいを持ち続ける人を把握するため、生きがい感を持っている人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・態度(認知)」

Q3 あなたは日頃、生活の中で生きがいを感じていますか。(1つに○)

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| 1 大変感じている | 3 ある程度感じている | 5 ほとんど感じていない |
| 2 かなり感じている | 4 あまり感じていない | |

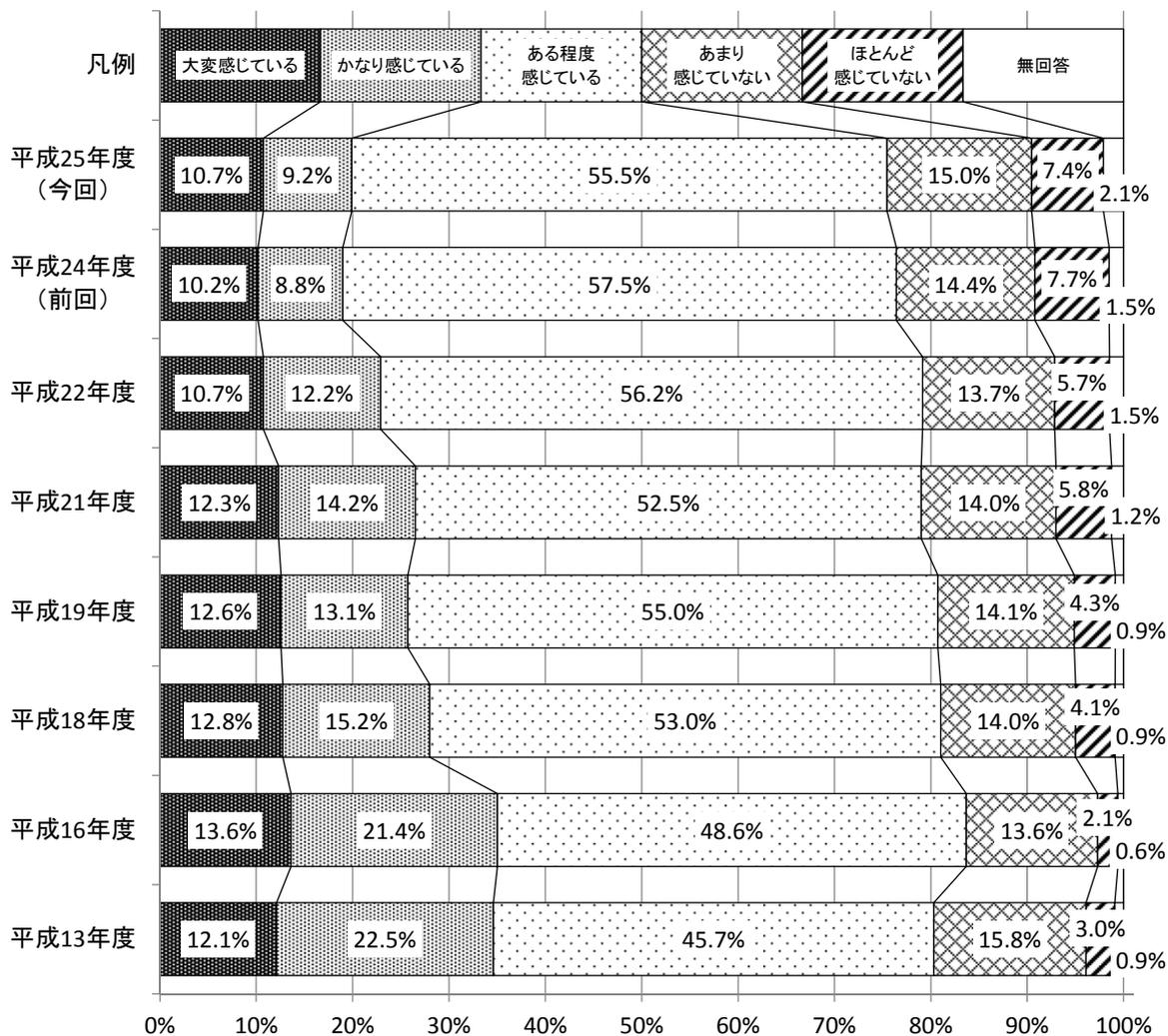
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度
大変感じている	12.1%	13.6%	12.8%	12.6%	12.3%	10.7%	10.2%	10.7%
かなり感じている	22.5%	21.4%	15.2%	13.1%	14.2%	12.2%	8.8%	9.2%
ある程度感じている	45.7%	48.6%	53.0%	55.0%	52.5%	56.2%	57.5%	55.5%
計	80.3%	83.6%	81.0%	80.7%	79.0%	79.1%	76.5%	75.4%

(4) 指標の分析

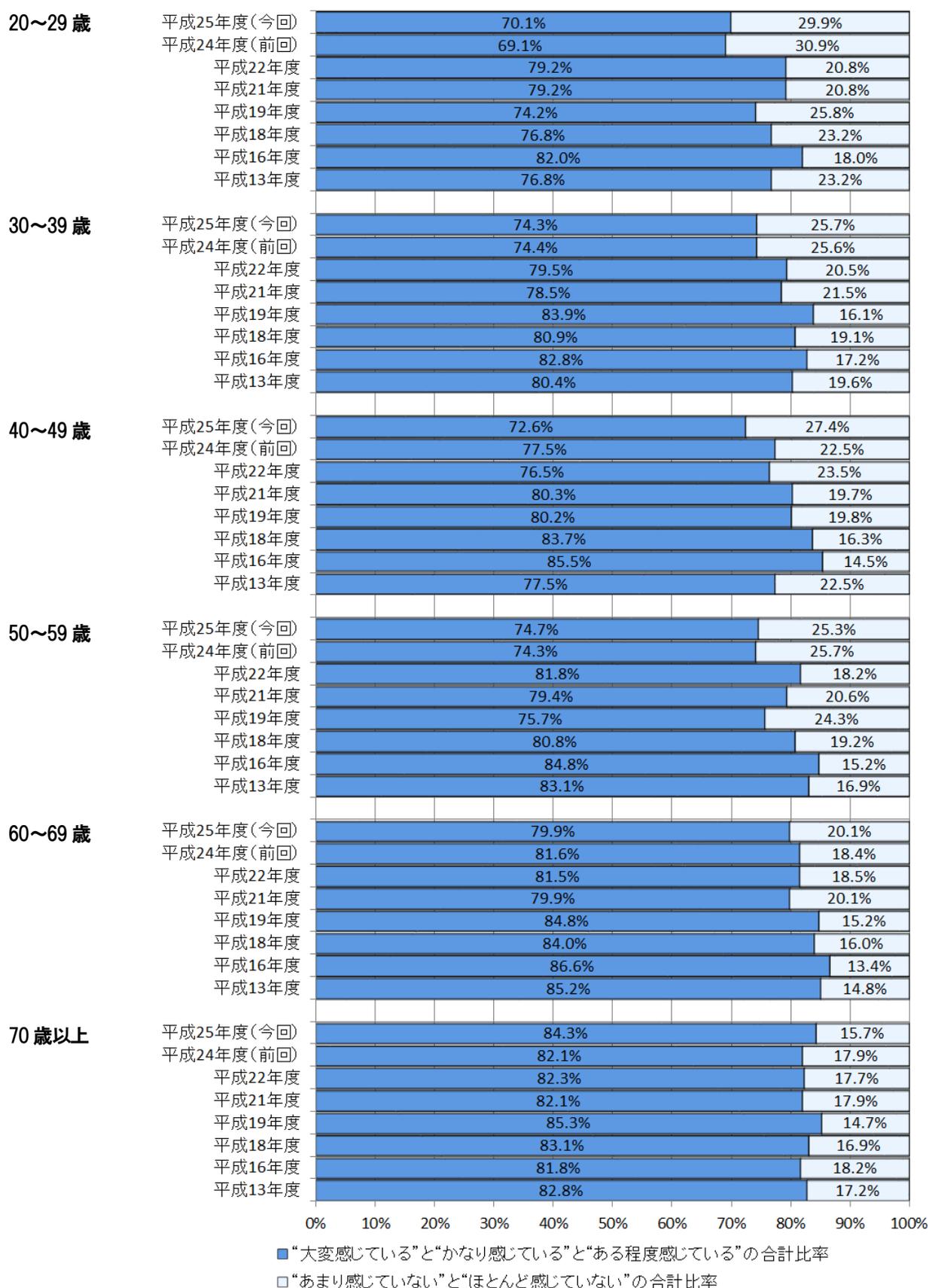
☆**何らかの生きがいを感じている人は75.4%となり、やや減少しています。**

日頃の生活の中で生きがいを感じているかどうかについてみると、“大変感じている”、“かなり感じている”、“ある程度感じている”をあわせた生きがいを感じている人の割合は75.4%と前回調査に比べやや減少しています。



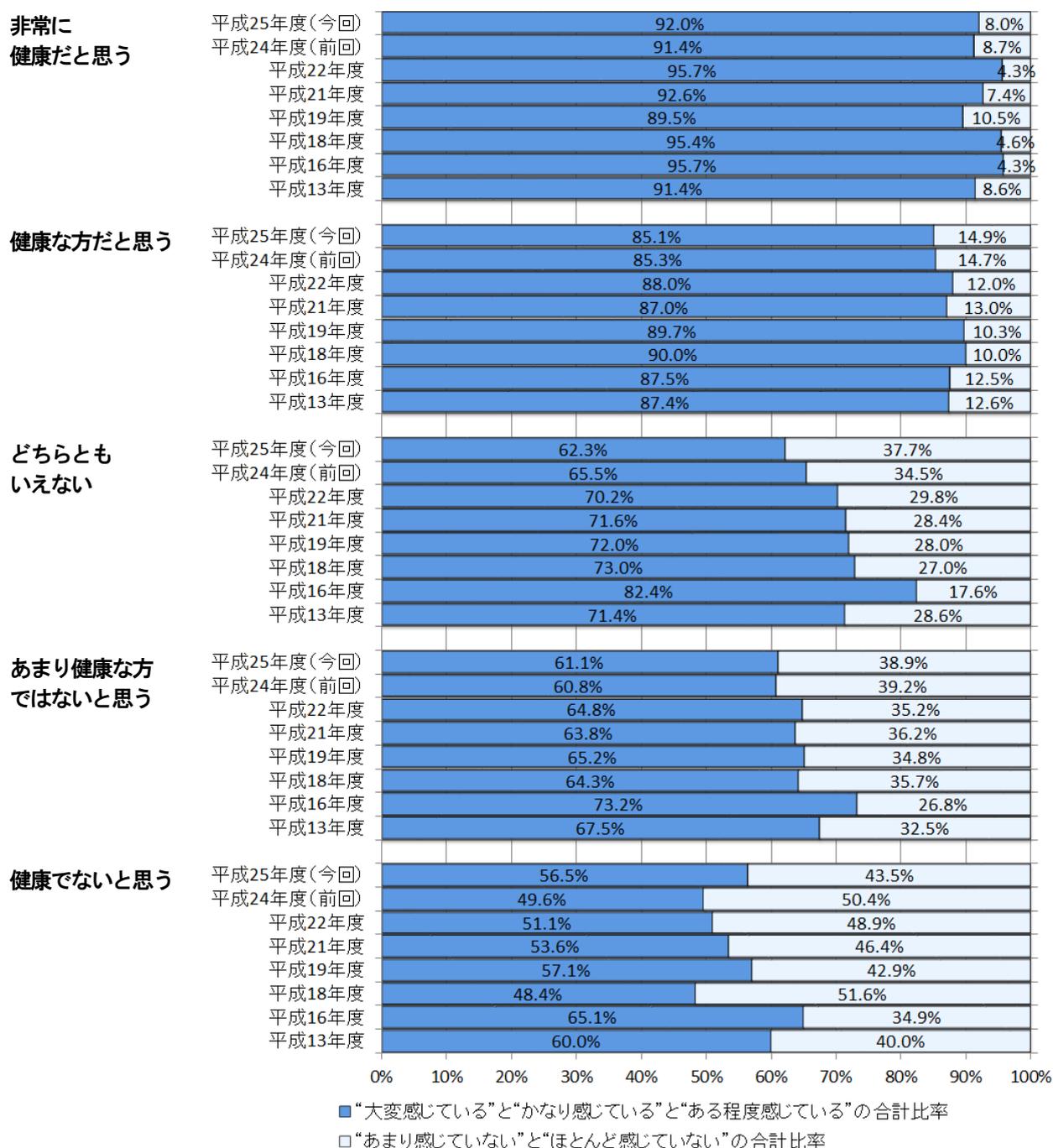
年齢別にみると、各年代とも生きがい感を持っている人の割合が高く、すべての年代で7割を超えています。前回調査に比べ、40歳代で77.5%から72.6%と生きがい感を持つ人が減少しています。

【生きがい感×年齢】



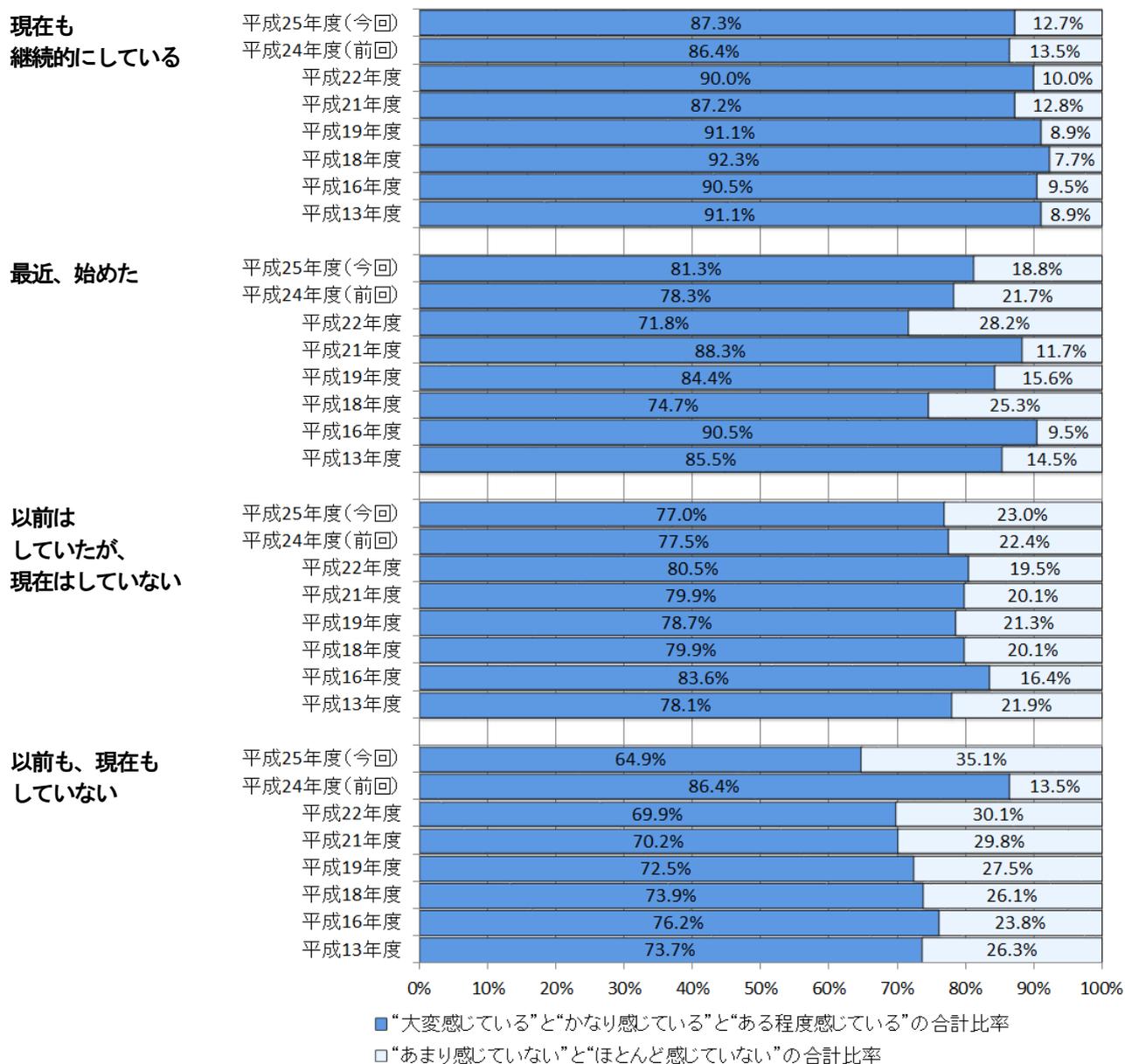
本人の健康感別にみると、前回調査と同様に健康状況に比例して生きがい感が高まる傾向が見られます。前回調査と比べ、“健康でないと思う”の層で生きがい感が増加しています。

【生きがい感×本人の健康感】



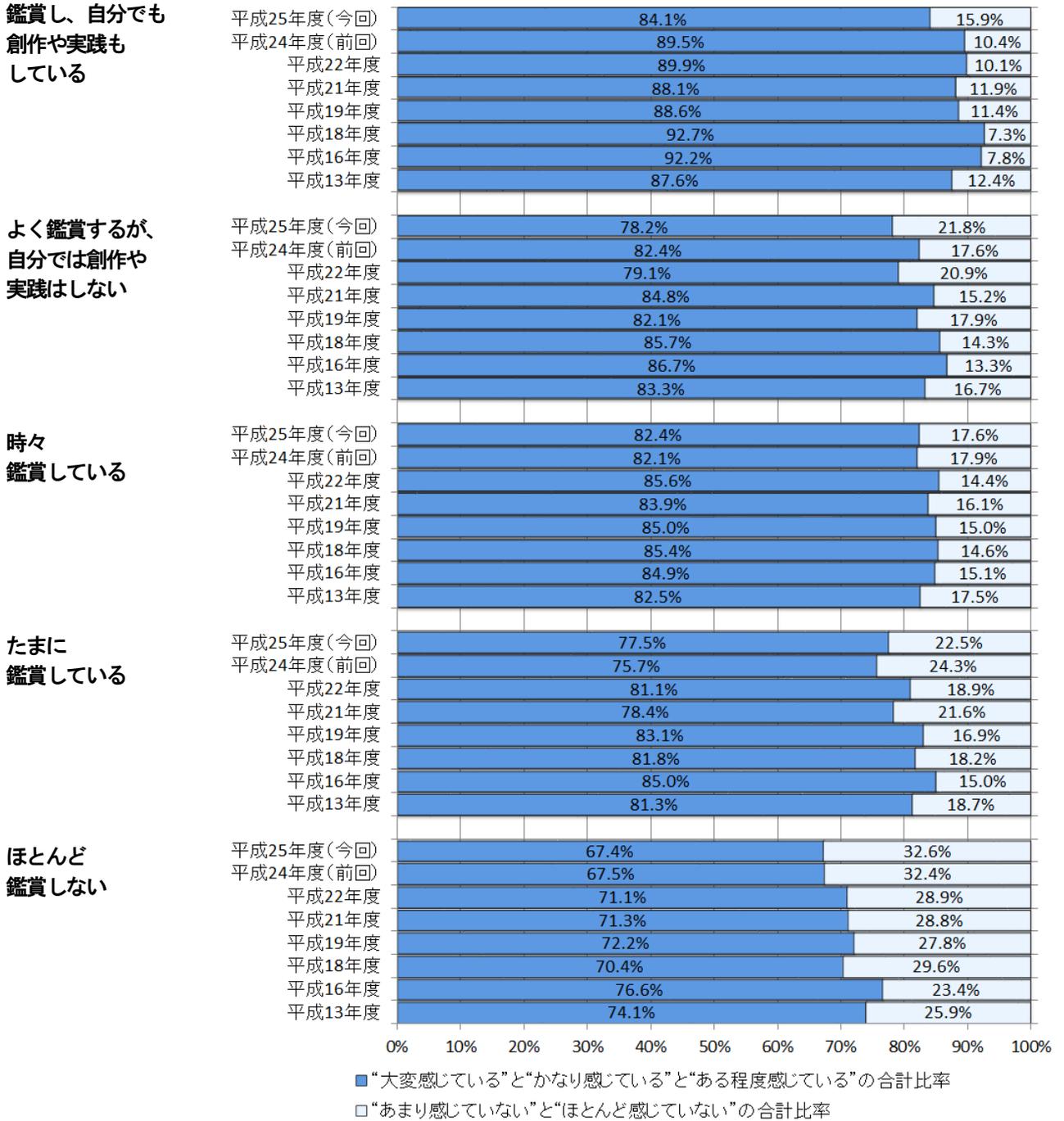
スポーツの実施状況別でみると、“以前も、現在もしていない”人の生きがい感を持っている人の割合が、前回調査の 86.4%から 64.9%へと 21.5 ポイント減っています。

【生きがい感×スポーツの実施状況】



芸術文化の実施状況別でみると、鑑賞している人の生きがい感が鑑賞していない人に比べ高くなっています。

【生きがい感×芸術文化の実施状況】



指標

本人が健康であると思う人の割合

(1) 指標の説明

健康は、あらゆる社会活動と市民生活の基盤であり、病気や障害を持つことになっても、その人の置かれた状況に応じて健康な生活が送れることが必要となります。そこで、本人が健康であると思う人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・態度(認知)」

Q4 あなたは今、健康だと思いますか。(1つに○)

- | | | |
|-------------|-------------------|------------|
| 1 非常に健康だと思う | 3 どちらとも言えない | 5 健康でないと思う |
| 2 健康なほうだと思う | 4 あまり健康なほうではないと思う | |

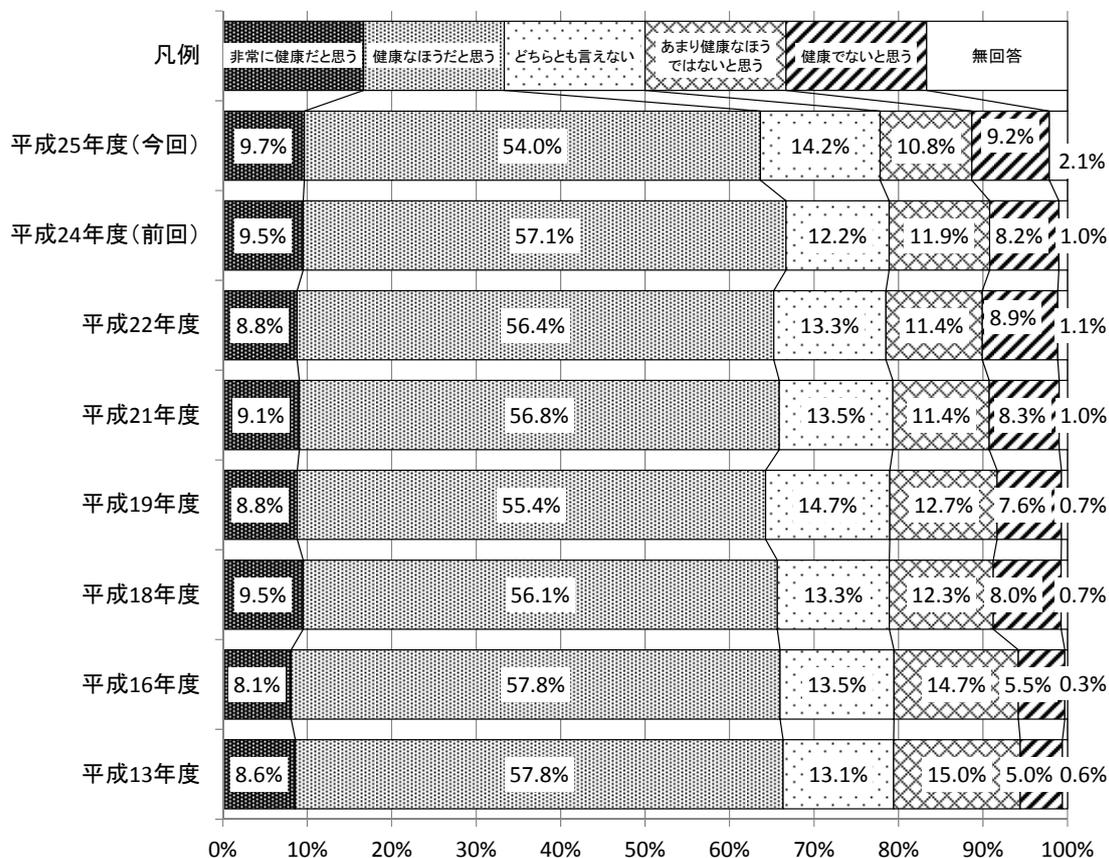
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度
非常に健康だと思う	8.6%	8.1%	9.5%	8.8%	9.1%	8.8%	9.5%	9.7%
健康な方だと思う	57.8%	57.8%	56.1%	55.4%	56.8%	56.4%	57.1%	54.0%
計	66.4%	65.9%	65.7%	64.3%	65.9%	65.2%	66.6%	63.6%

(4) 指標の分析

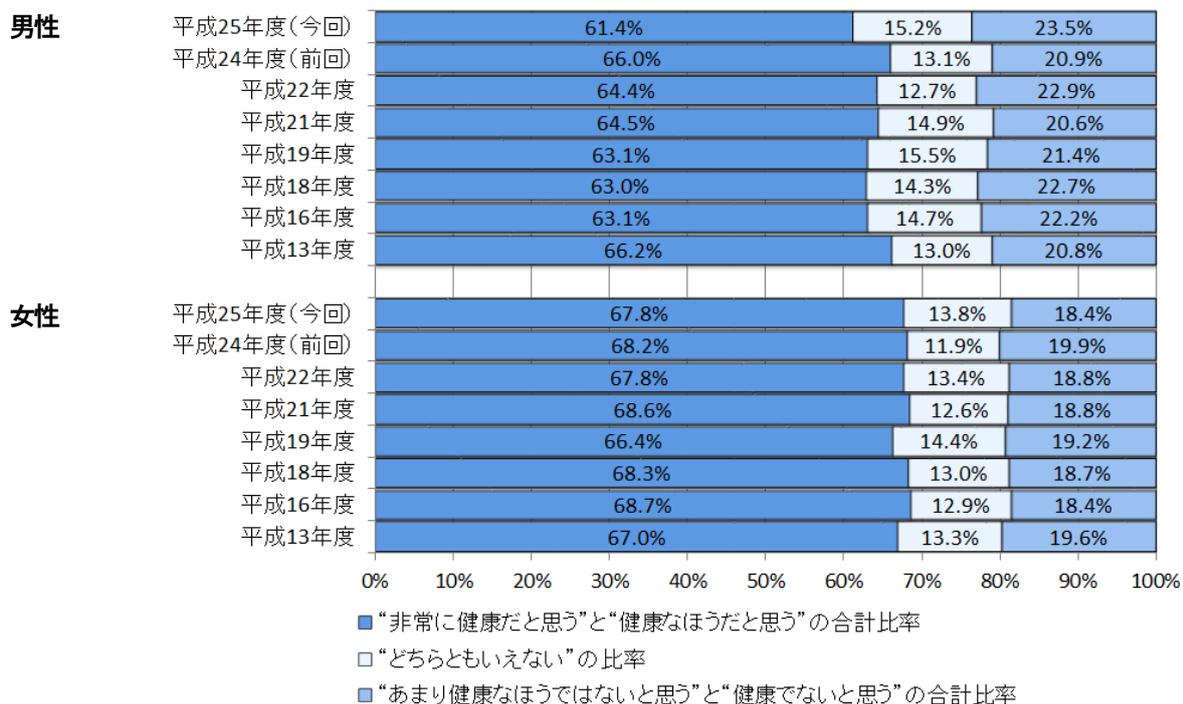
☆「健康である」と思う人は、市民の約3分の2を占めています。

主観的な自身の健康に対する評価をみると、54.0%と半数以上が“健康なほうだと思う”と回答しており、“非常に健康だと思う”（9.7%）とあわせると、63.7%が自分を健康だと考えています。



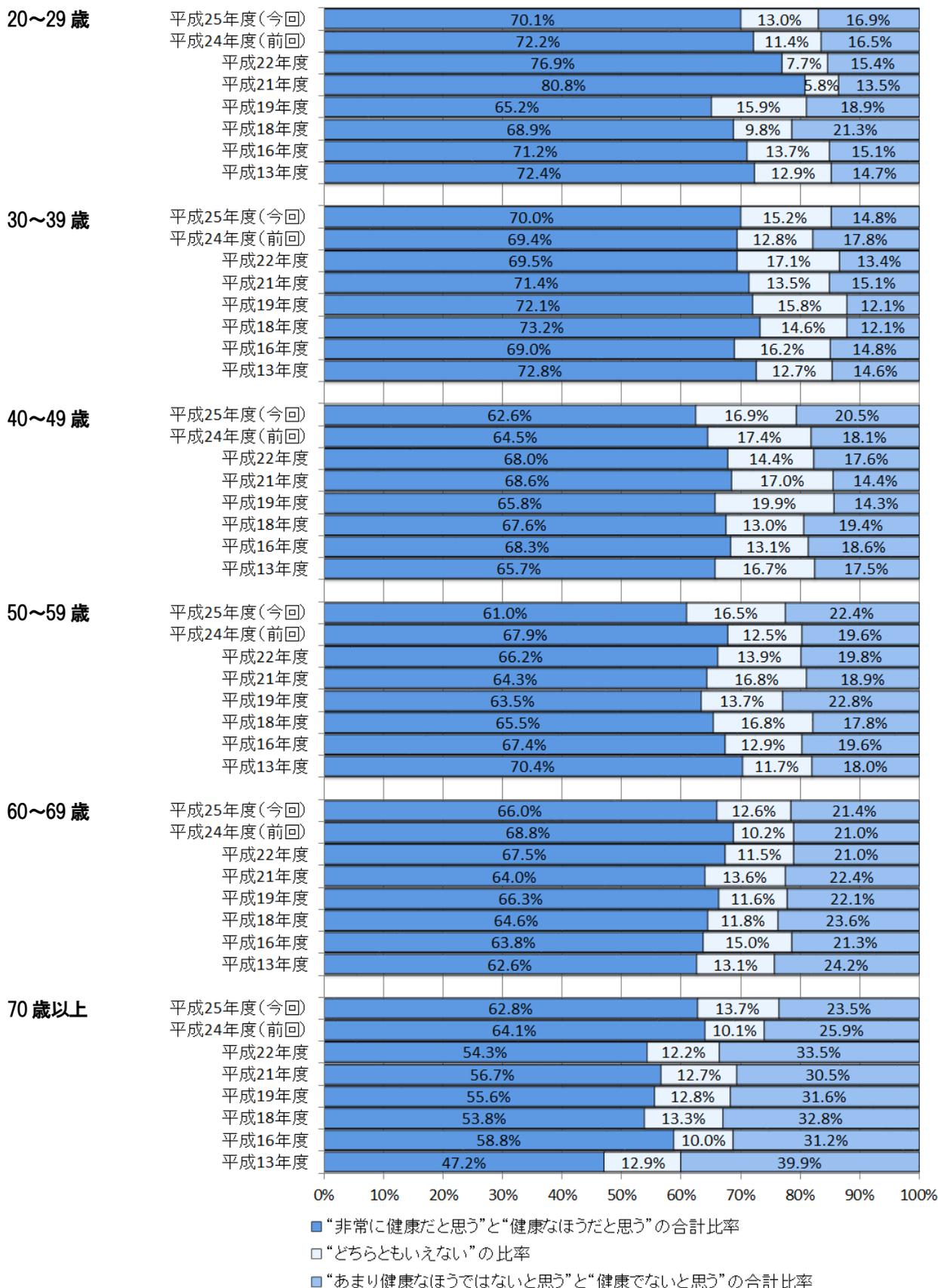
性別でみると、女性の方が健康であると思う人の割合が高くなっています。

【健康感×性別】



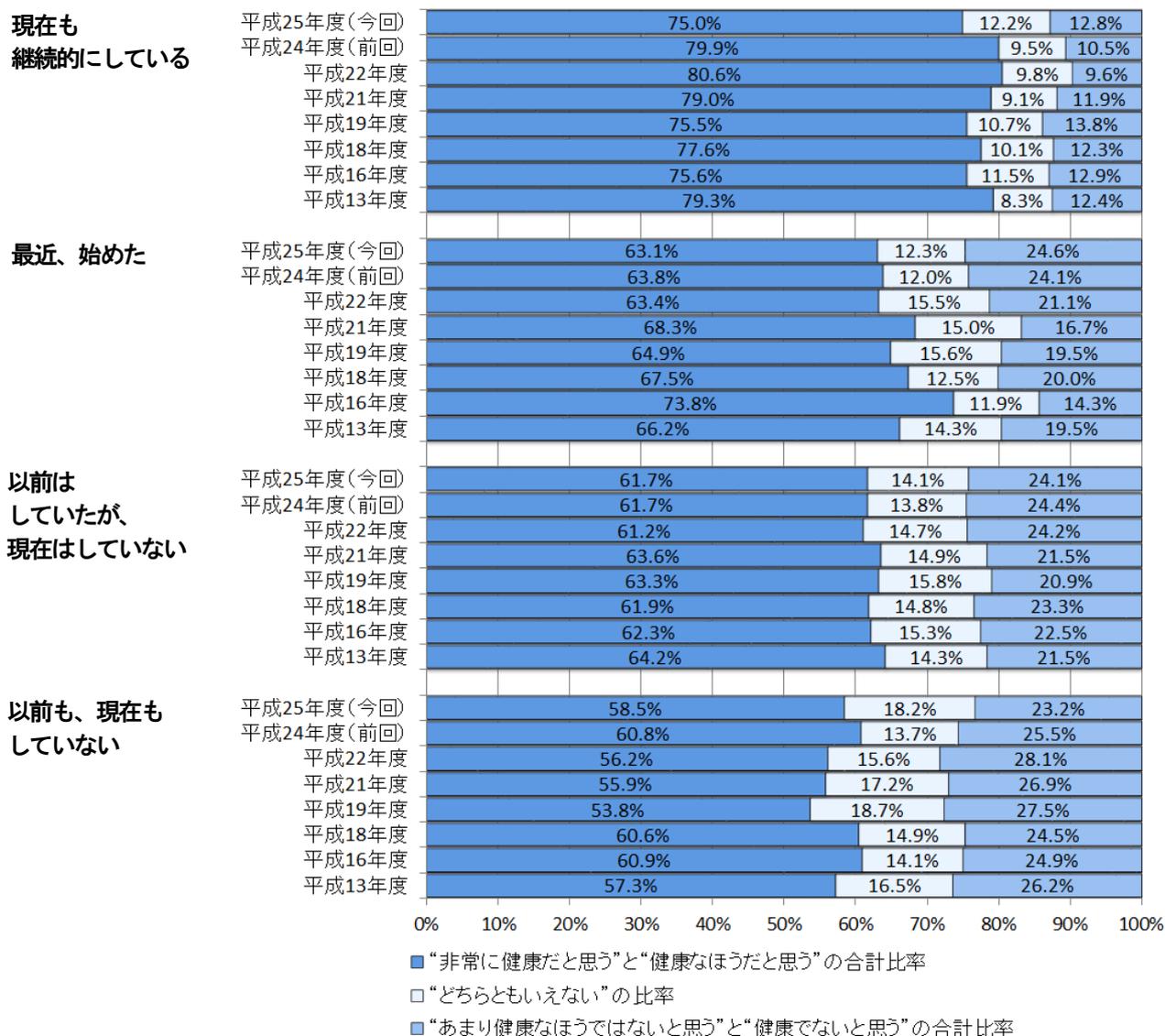
年齢別でみると、全年代で健康であると感じている人の割合は6割を超えています。特に20歳代、30歳代では7割を超えています。また、前回の調査と比べ、30歳代を除く全世代で健康であると感じている人の割合はやや減少しています。

【健康感×年齢】



スポーツの実施状況別でみると、スポーツを実施している人の方が健康であると感じている割合が高くなっています。

【健康感×スポーツの実施状況】



指標

多様な世代と交流する機会のある人の割合

(1) 指標の説明

生きがいを持って暮らせるように、多様な世代と交流する機会のある人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「地域・態度(評価)」

Q18-ソ あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてどの程度満足しているかについて、次のア～タの各項目ごとに、あなたの考えに最も近い番号それぞれ1つに○をつけてください。

項目	十分満足している	まあまあ満足している	普通である	やや不満である	きわめて不満である	わからない
ソ 多様な世代との交流	1	2	3	4	5	6

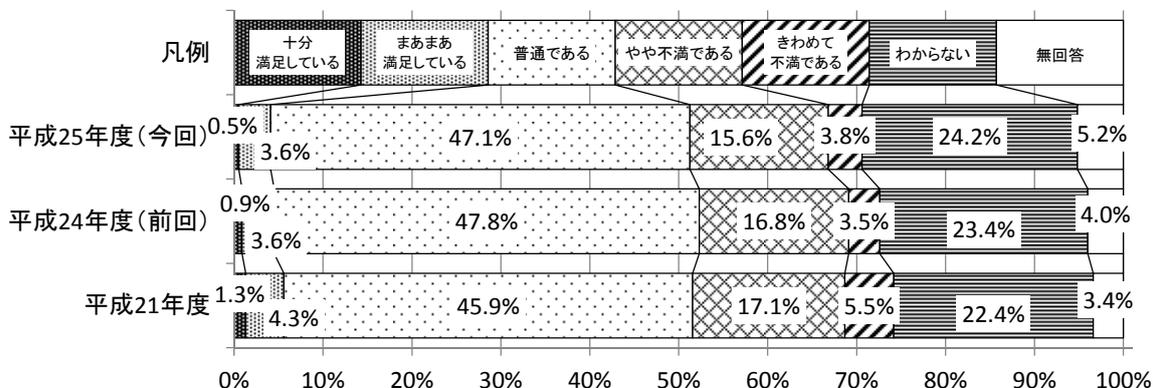
(3) 指標の現状

	平成21年度	平成24年度	平成25年度
十分満足している	1.3%	0.9%	0.5%
まあまあ満足している	4.3%	3.6%	3.6%
計	5.6%	4.5%	4.1%

(4) 指標の分析

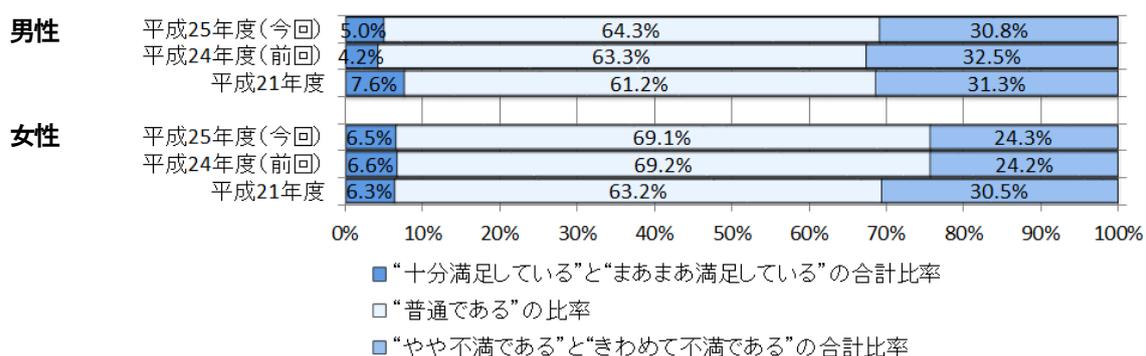
☆多様な世代との交流への満足度は前回調査と同様に1割未満

多様な世代との交流についての満足度は、4.1%と1割を下回っています。前回調査に比べ4.5%から4.1%とさらに減少しています。



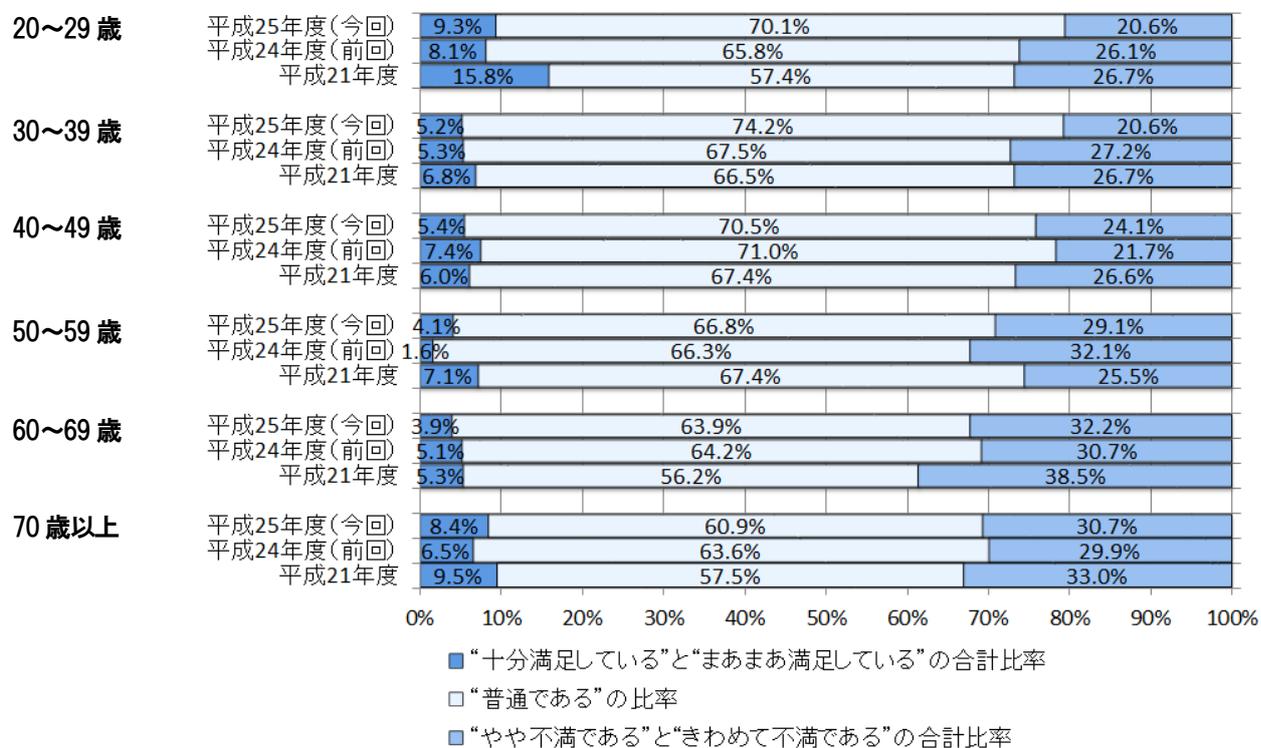
性別でみると、男性(5.0%)よりも女性(6.5%)の方が多様な世代との交流に“満足している”という回答の割合が高くなっています。

【多様な世代との交流×性別】



年齢別にみると、20歳代、50歳代、70歳以上で前回調査よりも多様な世代との交流に“満足している”人の割合が増えています。

【多様な世代との交流×年齢】



第2節 豊かな人生を支える福祉社会の実現

第2項 病気や障害、高齢などを理由に生活に支障があっても、自立した生活が送れるようにします

めざしたい将来像：

市民一人ひとりが、どう生きたいか、どう老いるかを考えて生活を送るようにします。そして、自助・共助・公助を高めて、個人の尊厳を保ちながら生きられ、誰もが自立した生活を安心して送れるまちを実現します。

指標

日常生活に対して不安を感じていない人の割合

(1) 指標の説明

社会的・経済的状況による生活保護世帯の増加、万が一のための救急医療体制、高齢化社会の進展による要介護者の増加等、市民を取り巻く社会環境のなかで、日常生活上のセーフティネット(安全網)を確立し、生活する上での安心感を把握する必要があると考えられます。そこで、日常生活に対して不安を感じていない人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により逆説的に聞いています。「個人・態度(認知)」

Q5 あなたは今、生活の中で不安になったり、心配になったりすることがありますか。次の中から特に気になることをお答え下さい。(あてはまる番号全てに○)

- | | |
|-----------------------|------------|
| 1 自分の健康 | 8 子どもの将来 |
| 2 家族の健康 | 9 住居や住まい |
| 3 将来自分や家族が必要になったときの介護 | 10 財産や資産 |
| 4 現在の生活や家計 | 11 人との付き合い |
| 5 将来の生活や家計 | 12 生きがい |
| 6 仕事 | 13 その他() |
| 7 出産や子育て | 14 特にない |

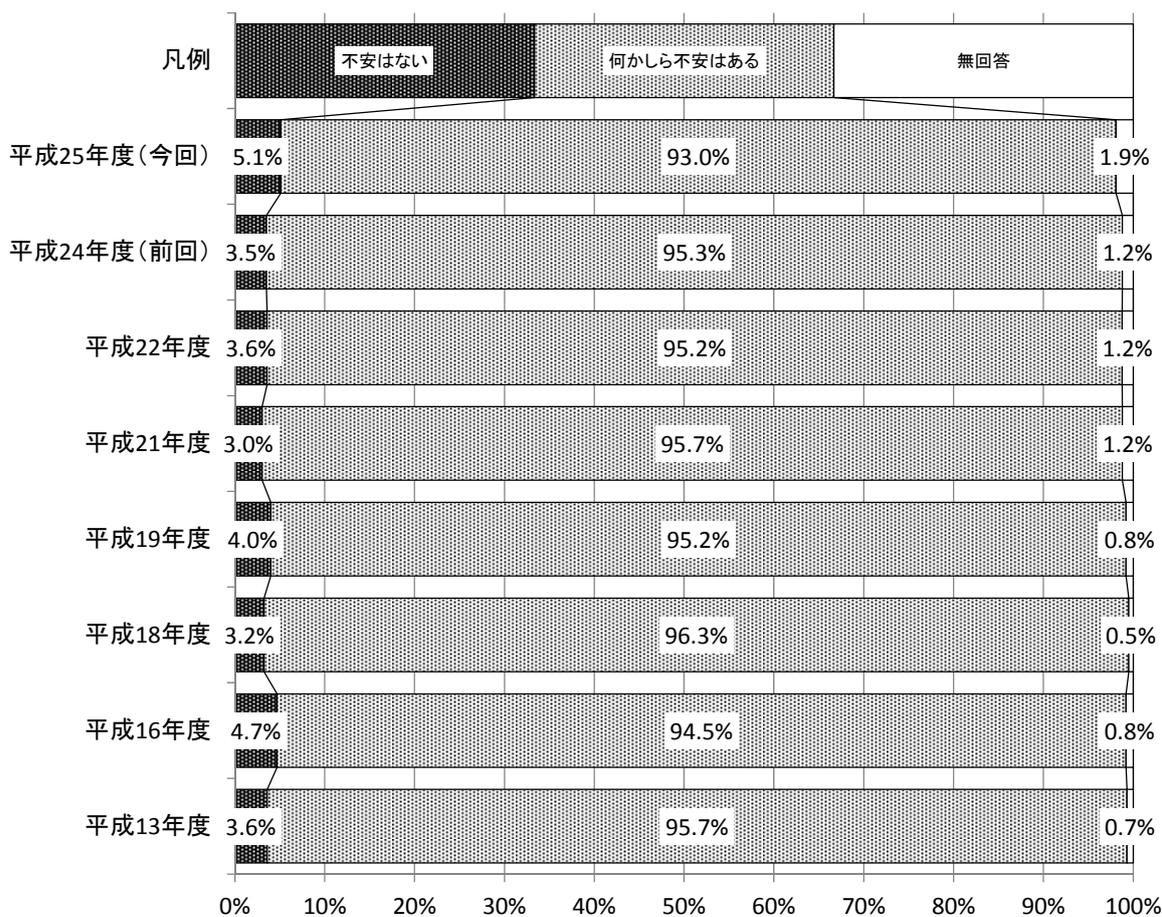
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度
特になし	3.6%	4.7%	3.2%	4.0%	3.0%	3.6%	3.5%	5.1%

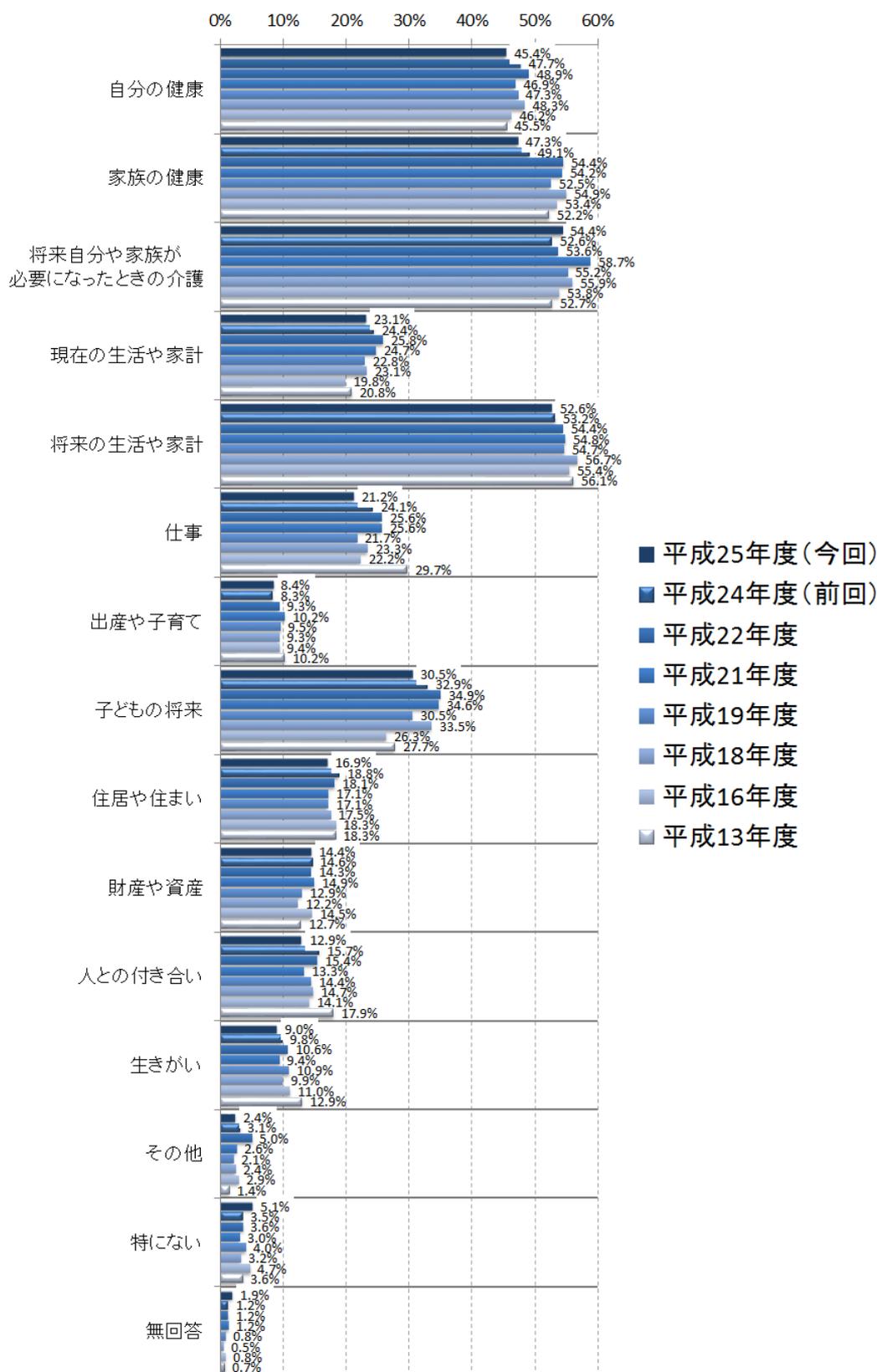
(4) 指標の分析

☆日常生活に不安はないとする人の割合に大きな変化はみられません。

“日常生活に不安はない”という回答は5.1%で前回の調査(3.5%)と比べやや増加していますが、大半は何かしらの不安を感じており、不安を感じている人の割合にも大きな変化はみられません。

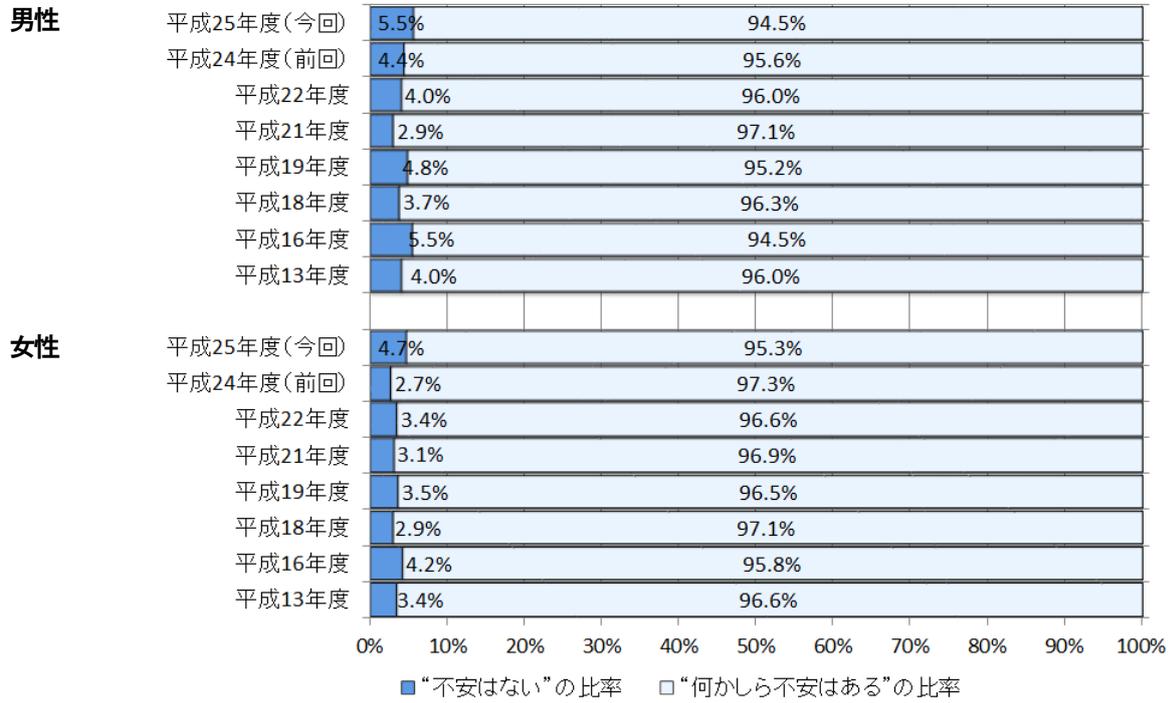


不安や心配なこととしては、“将来自分や家族が必要になったときの介護” (54.4%)、“将来の生活や家計” (52.6%)、“家族の健康” (47.3%)、“自分の健康” (45.4%)などへの回答が多くなっています。

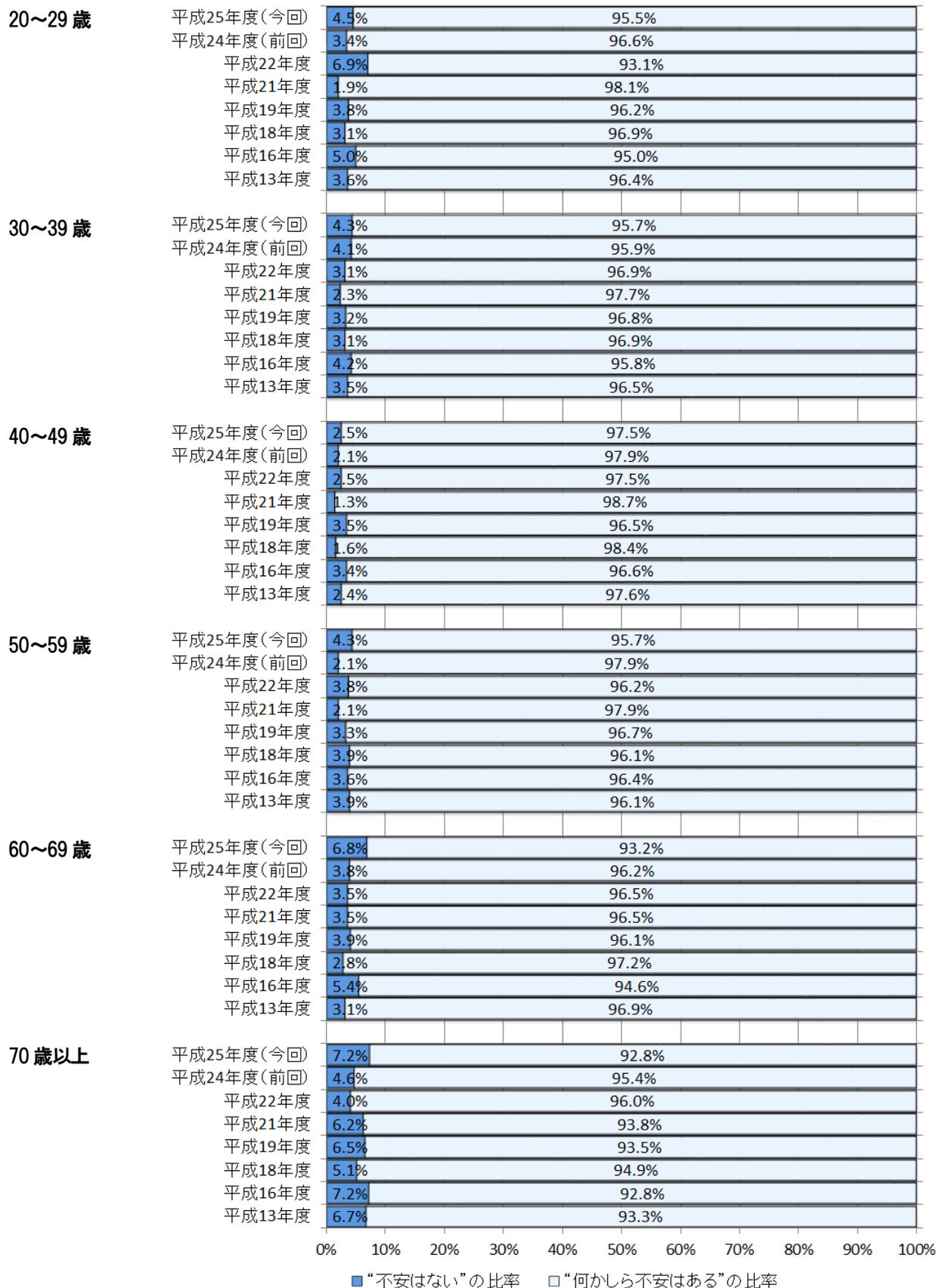


性別や年齢別でも、大半の人は何かしらの不安を抱えている結果となっています。

【安心感×性別】



【安心感×年齢】



第2節 豊かな人生を支える福祉社会の実現

第3項 安心して子どもを生み、健やかに育てることができるようにします

めざしたい将来像：

地域ぐるみで子育てを支援し様々なサービスが選択できるようにすることによって、子育てしやすく、子どもの笑顔があふれる街まつどを実現します。

指標

子育ての満足度

(1) 指標の説明

子育てしやすく、子どもの笑顔があふれる街にするには、子育て支援体制の充実が最も重要な課題のひとつとなっています。そこで、子育ての満足度を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により出産や子育てに不安や心配がない人の割合を逆説的に取得しています。「個人・態度(認知)」

Q5 あなたは今、生活の中で不安になったり、心配になったりすることがありますか。次の中から特に気になることをお答え下さい。(あてはまる番号全てに○)

- | | |
|-----------------------|------------|
| 1 自分の健康 | 8 子どもの将来 |
| 2 家族の健康 | 9 住居や住まい |
| 3 将来自分や家族が必要になったときの介護 | 10 財産や資産 |
| 4 現在の生活や家計 | 11 人との付き合い |
| 5 将来の生活や家計 | 12 生きがい |
| 6 仕事 | 13 その他 () |
| 7 出産や子育て | 14 特にない |

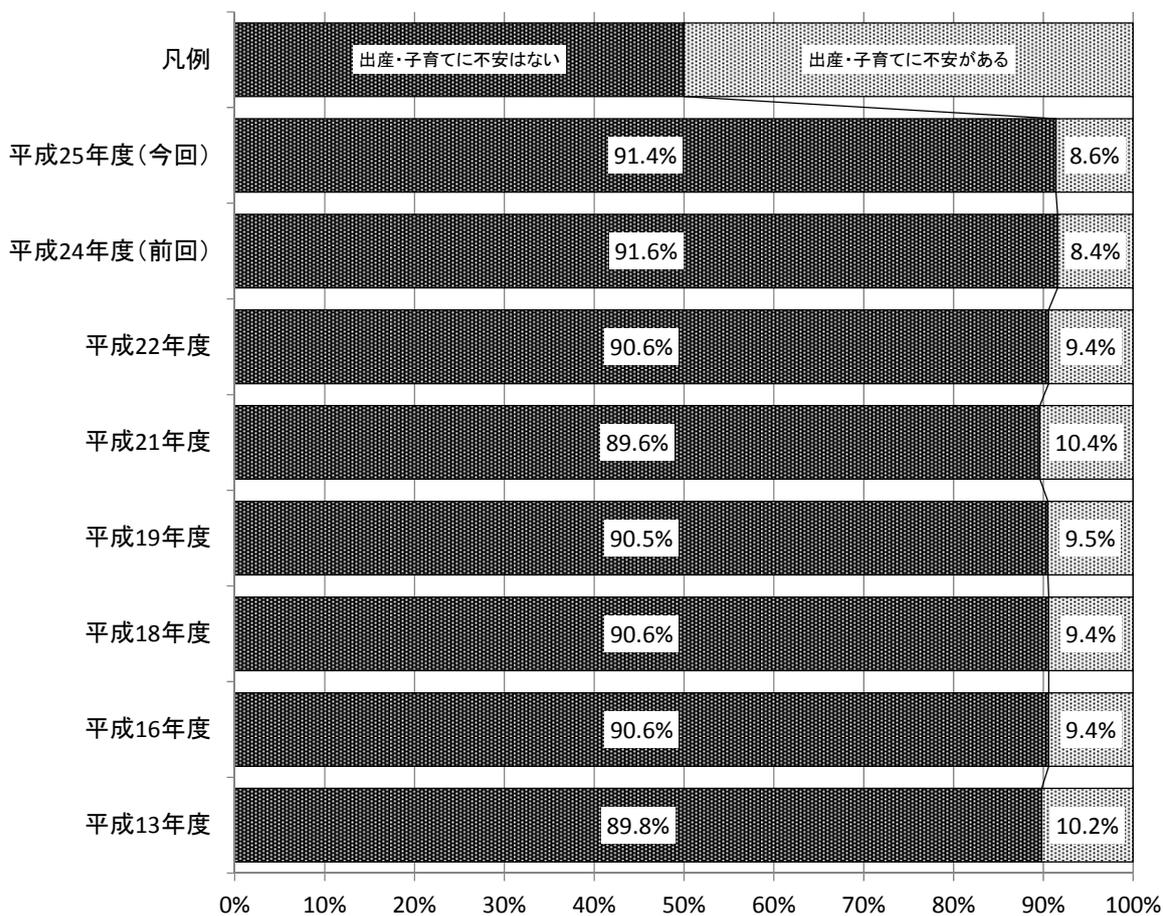
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度
出産や子育てに不安や心配がない	89.8%	90.6%	90.6%	90.4%	89.6%	90.6%	91.6%	91.4%

(4) 指標の分析

☆出産や子育てについて不安を感じない人が大多数を占めています。

出産や子育てに対して不安を感じていない人は、前回調査に比べやや減少していますが、大多数を占めています。



第3節 次代を育む文化・教育環境の創造

第2項 生涯学習やスポーツを楽しむことができるようにします

めざしたい将来像：

生涯を通じて学んだり、スポーツをする楽しさを味わい続けられるように、自主的に参加しやすい場所や機会を増やすことで、年齢に関わらず心身ともにいきいきと暮らせるまちを実現します。

指標

学習活動を行っている市民の割合

(1) 指標の説明

地域づくりの基盤となる生涯学習社会の実現に向けて、学習活動を行っている市民の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により期間を限定して直接的に聞いています。「個人・行動」

Q7 あなたは日頃、特定の関心があるテーマについて、自主的に学習活動をしていることがありますか。過去1年間を振り返って、学習活動に取り組んだ日数は平均するとどのくらいですか。

(1つに○)

- | | | |
|----------|----------|--------|
| 1 ほぼ毎日 | 3 月に数日ほど | 5 全くない |
| 2 週に数日ほど | 4 年に数日ほど | |

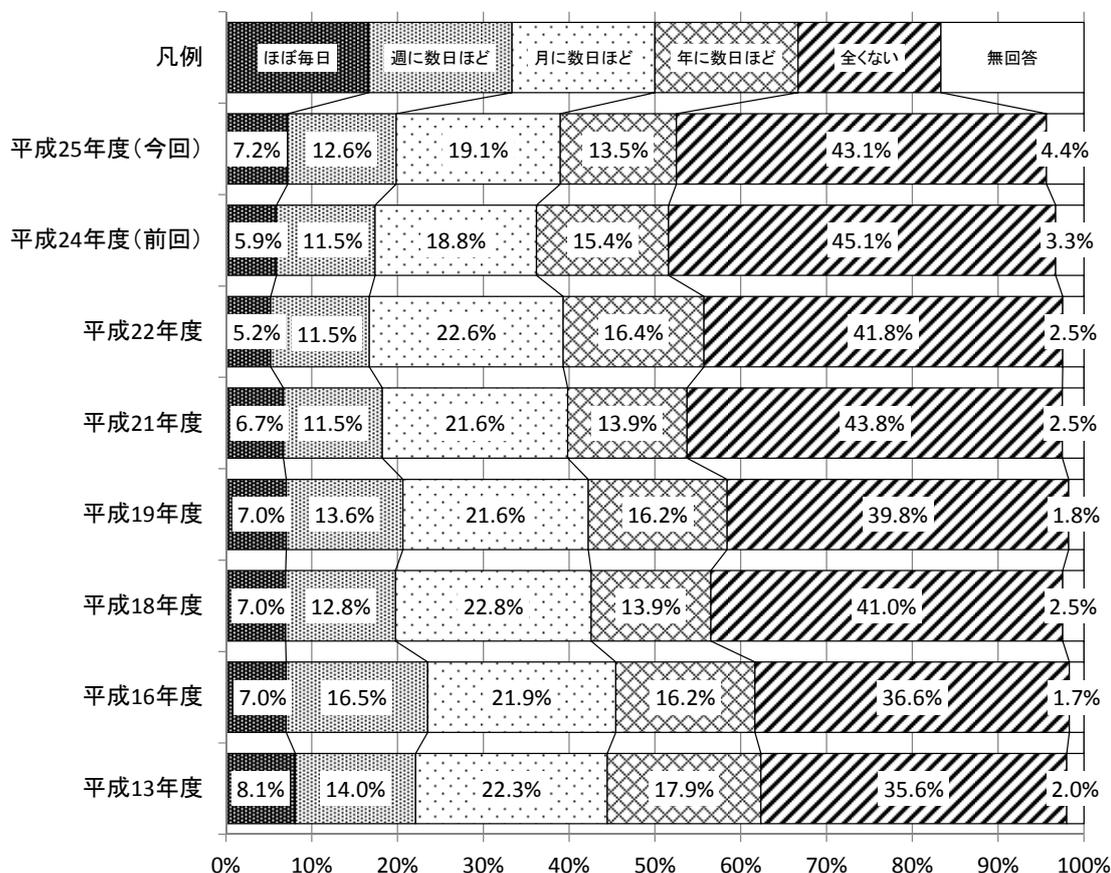
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度
ほぼ毎日	8.1%	7.0%	7.0%	7.0%	6.7%	5.2%	5.9%	7.2%
週に数日ほど	14.0%	16.5%	12.8%	13.6%	11.5%	11.5%	11.5%	12.6%
月に数日ほど	22.3%	21.9%	22.8%	21.6%	21.6%	22.6%	18.8%	19.1%
計	44.4%	45.4%	42.6%	42.2%	39.8%	39.3%	36.2%	39.0%

(4) 指標の分析

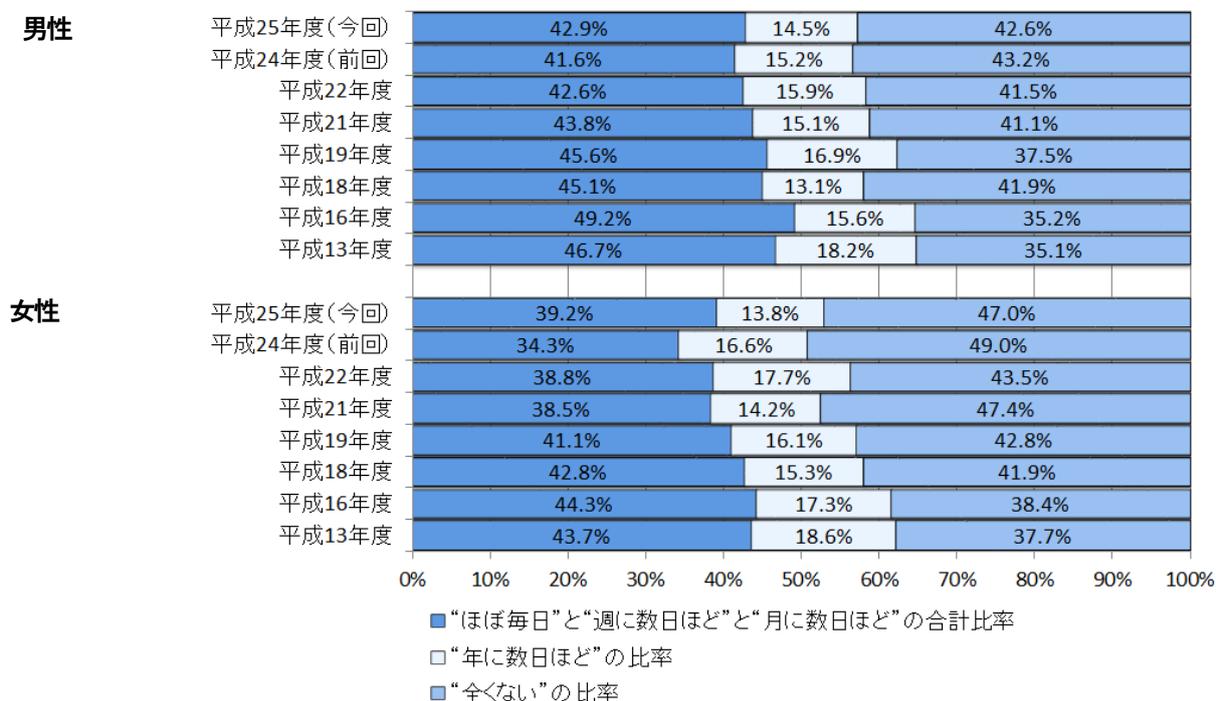
☆定期的に学習活動を行う人は3割以上を占めています。

月に数日以上の定期的な学習活動を行う人は39.0%と3割以上を占めています。前回の調査(36.2%)と比べ、月に数日以上の定期的な学習活動を行う人の割合はやや増加しています。



性別でみると、前回調査と同様に女性よりも男性の方が定期的に学習活動をしている人の割合が高くなっています。女性では“月に数日以上自主的に学習活動を行う人”が34.3%から39.2%と4.9ポイント増えています。

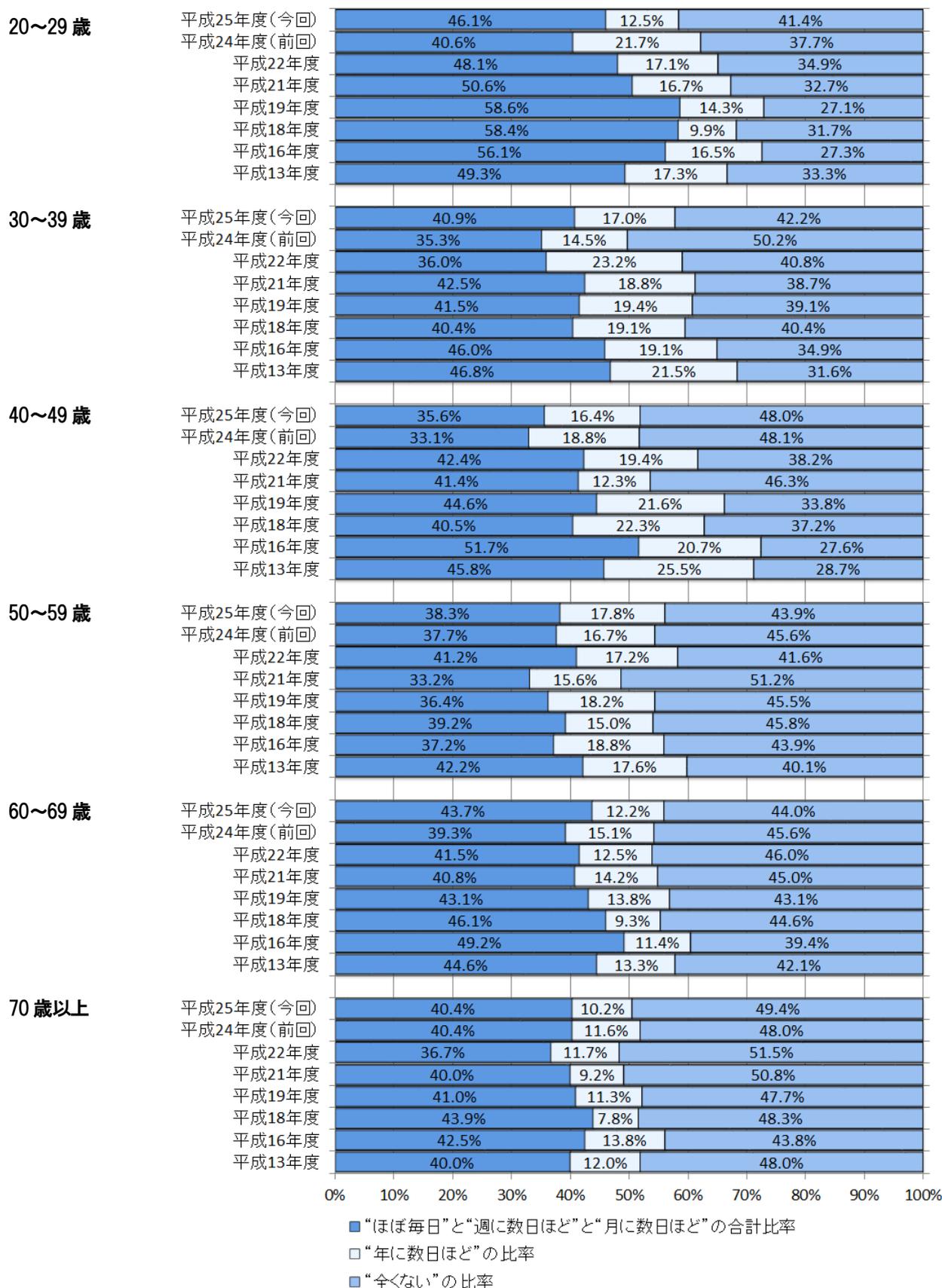
【学習活動×性別】



年齢別にみると、定期的に学習活動を行っている人は20歳代で46.1%と最も高くなっています。

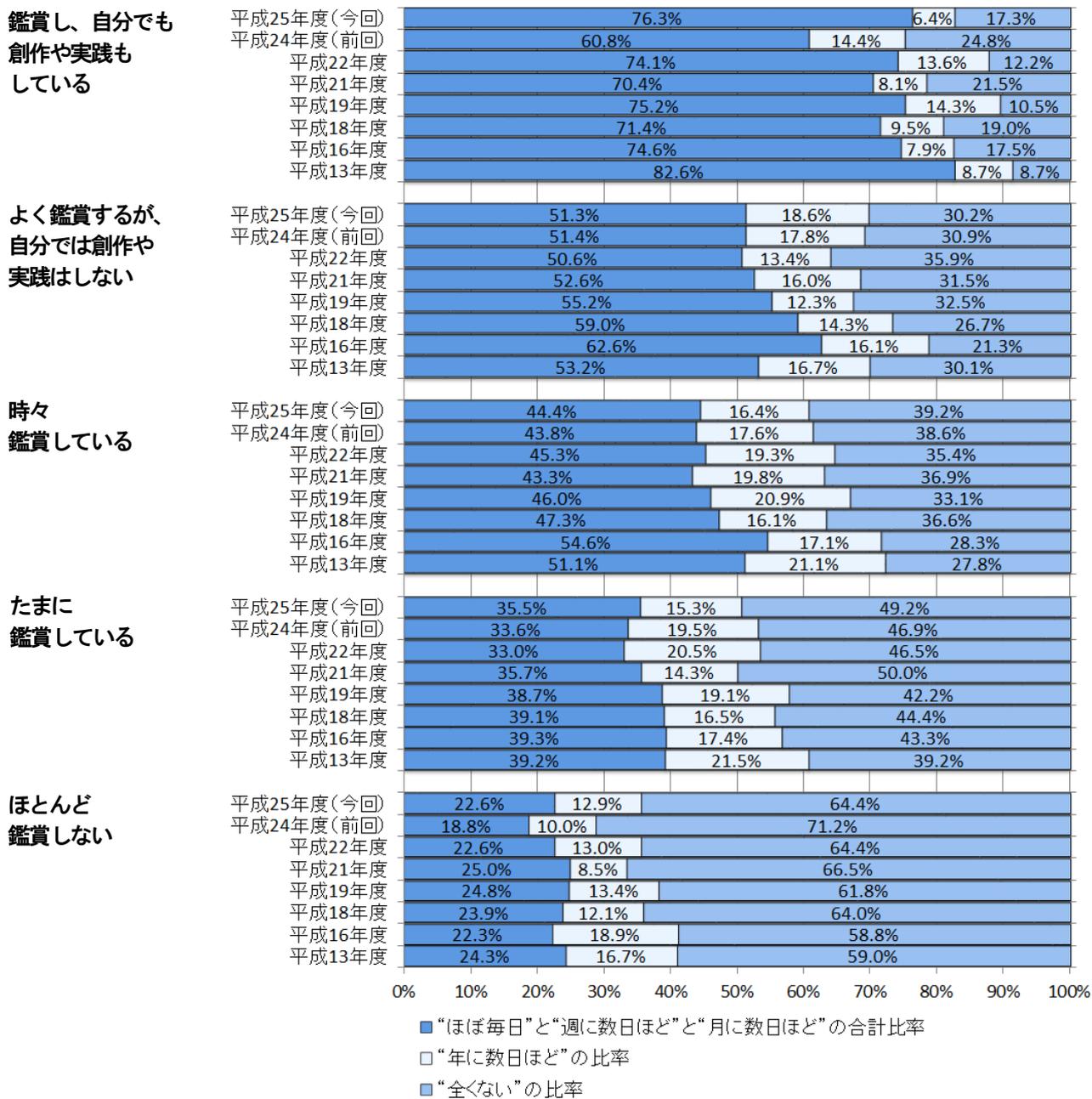
前回調査に比べ、70歳以上以外の年代で定期的に学習活動を行っている人は増加しています。特に30歳代では35.3%から40.9%と5.6ポイント増えています。

【学習活動×年齢】



芸術文化活動別にみると、芸術文化活動を行っている人の方が定期的に学習活動をしている人の割合が高くなっています。前回調査に比べ、“鑑賞し、自分でも創作や実践もしている”人で定期的に学習活動をしている人の割合が60.8%から76.3%と15.5ポイント増加しています。

【学習活動×芸術文化の実施状況】



指標

学習活動の成果を地域社会で活かしている市民の割合

(1) 指標の説明

地域づくりの基盤となる生涯学習社会の実現に向けて、学習活動の成果を地域社会で活かしている市民の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・態度(認知)」

Q8 あなたがこれまでに、自主的に取り組んだ学習活動の成果が活かされていると思いますか。次の中から、活かされていると思う番号全てに○をつけてください

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| 1 仕事、職業に活かされている | 5 親睦を深めたり、友人を得るときに活かされている |
| 2 自分自身の向上に活かされている | 6 その他() |
| 3 家庭や家族に活かされている | 7 活かされていない |
| 4 地域活動や社会活動に活かされている | 8 学習活動をしたことがない |

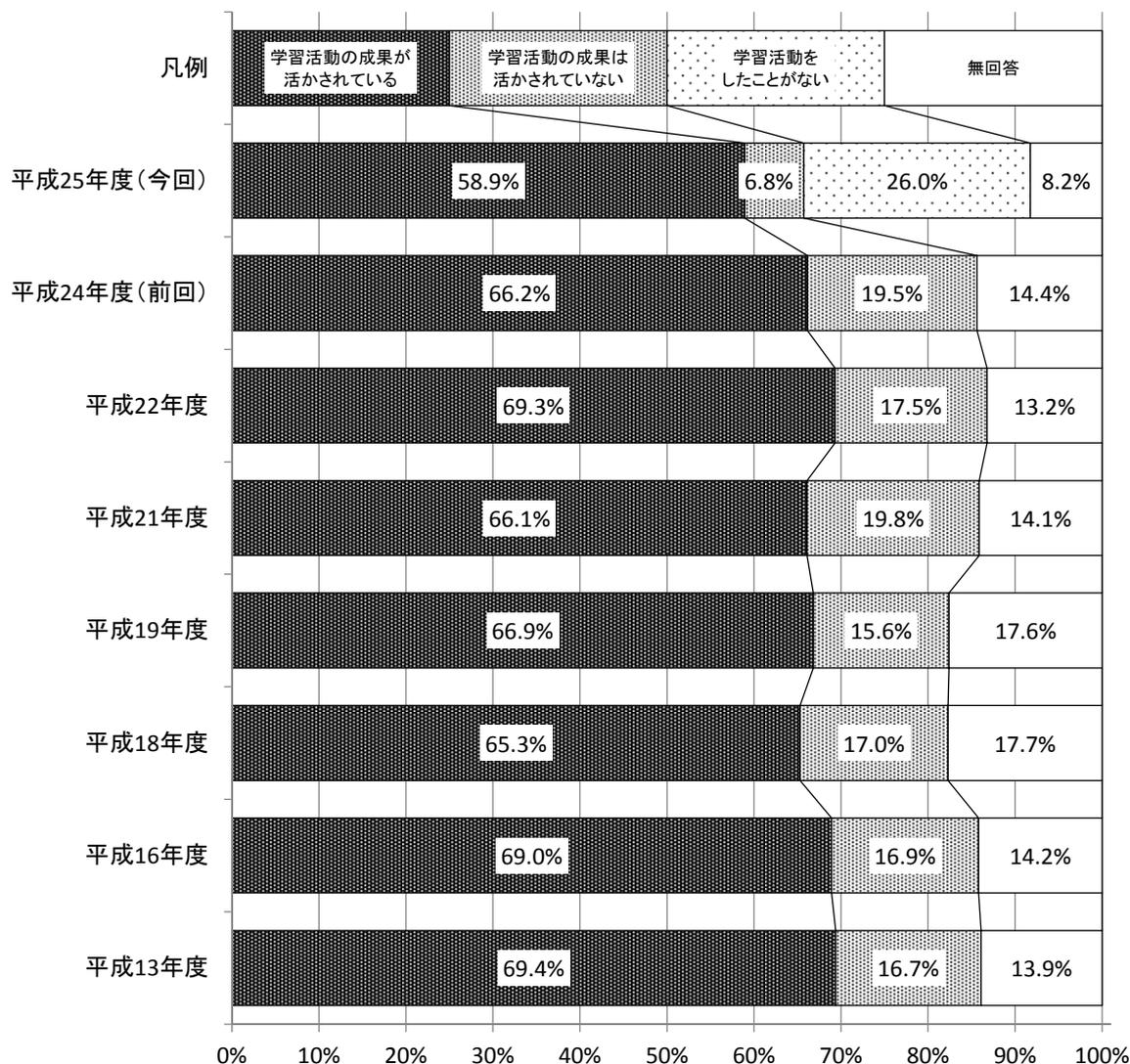
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度
成果が活かされている	69.4%	69.0%	65.3%	66.9%	66.1%	69.3%	66.2%	58.9%

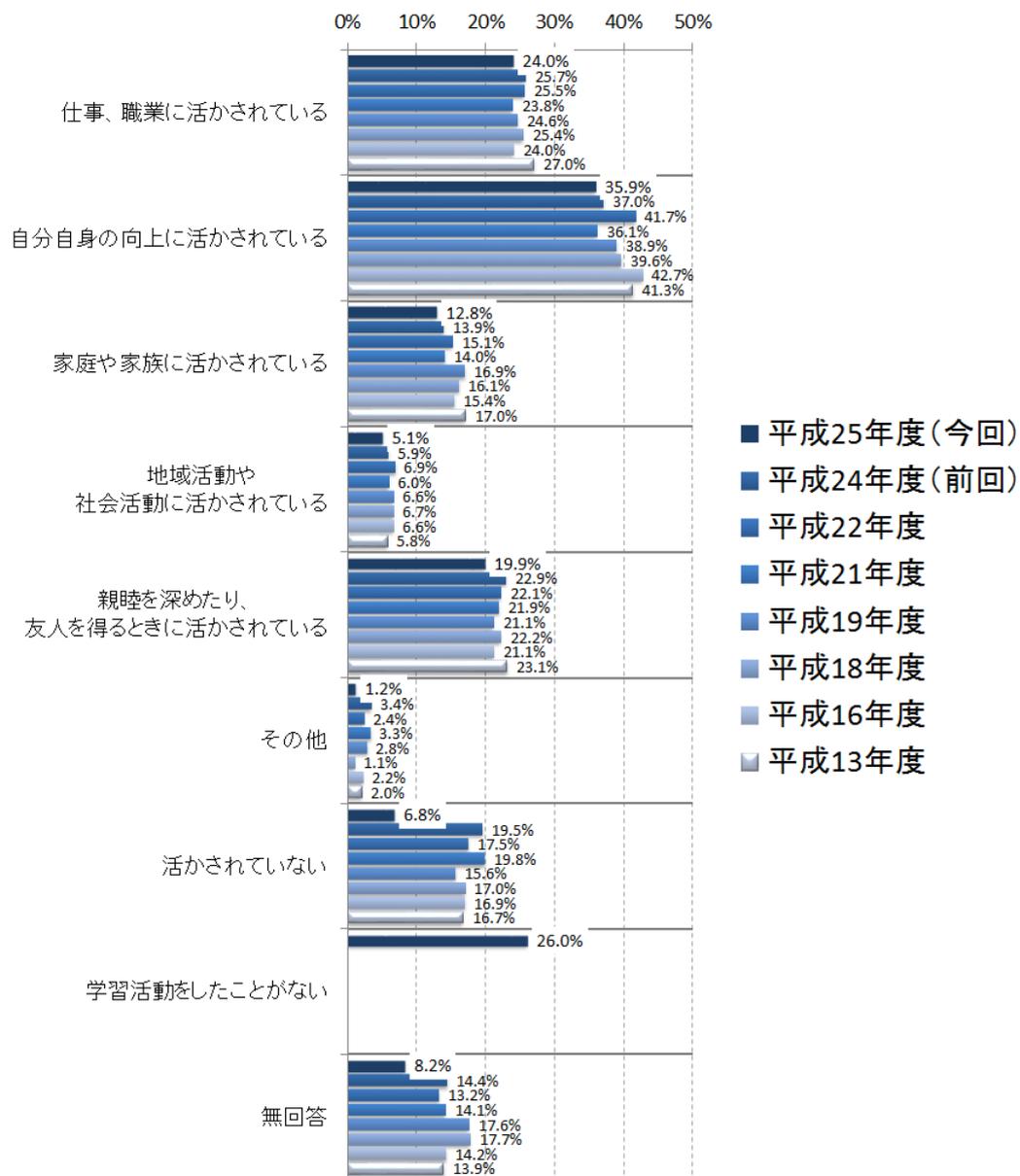
(4) 指標の分析

☆学習活動の成果を活かす人の割合は、やや減少。

自主的に取り組んだ学習活動の成果が何らかの形で活かされているかどうかについて聞いたところ 58.9%が“学習活動の成果が活かされている”と回答しており、前回調査よりも回答の割合がやや減少しています。

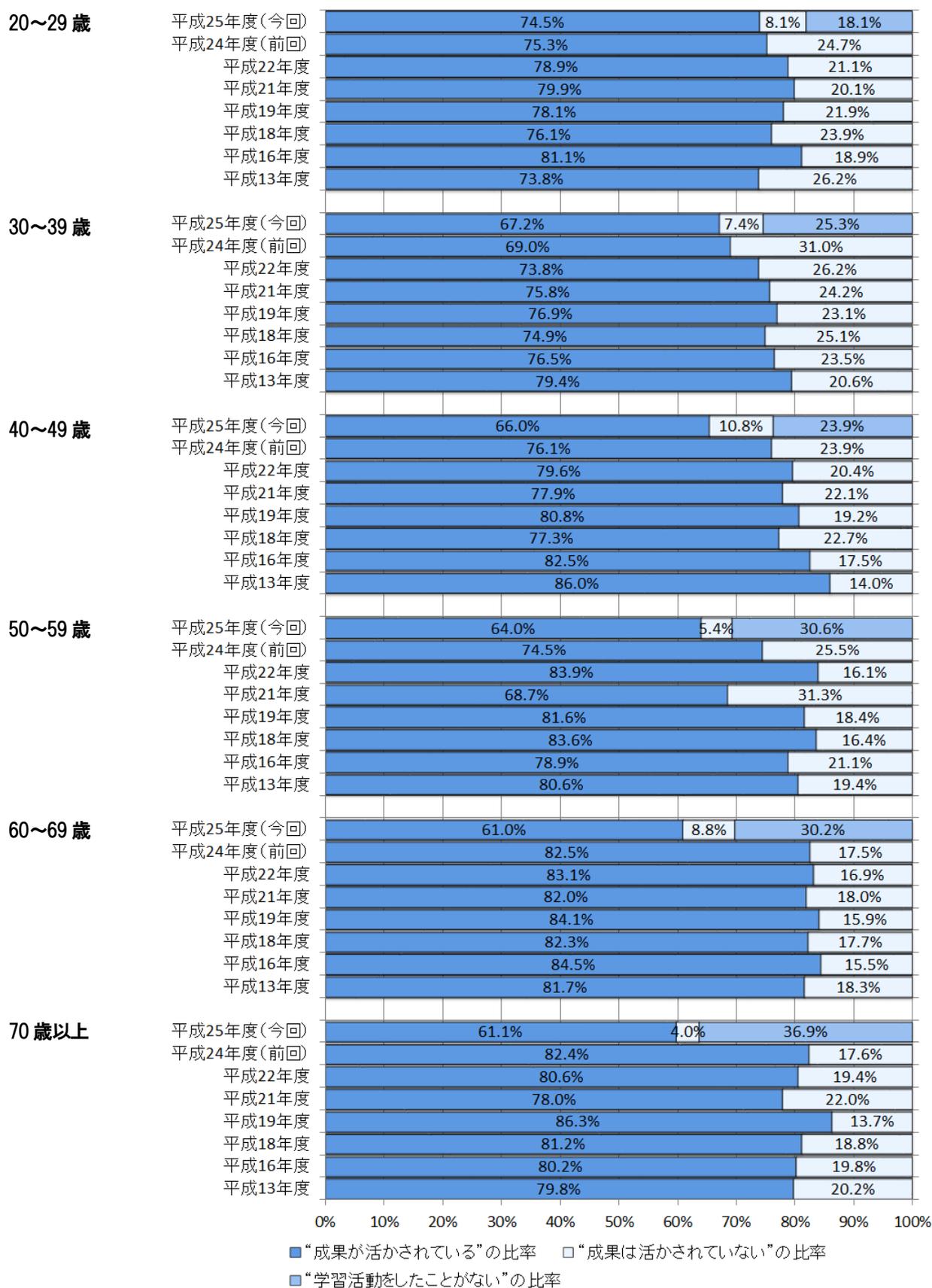


自主的に取り組んだ学習活動が活かされていることとしては、“自分自身の向上に活かされている”(35.9%)が最も多くなっていますが、前回調査と比べて回答の割合が低くなっています。



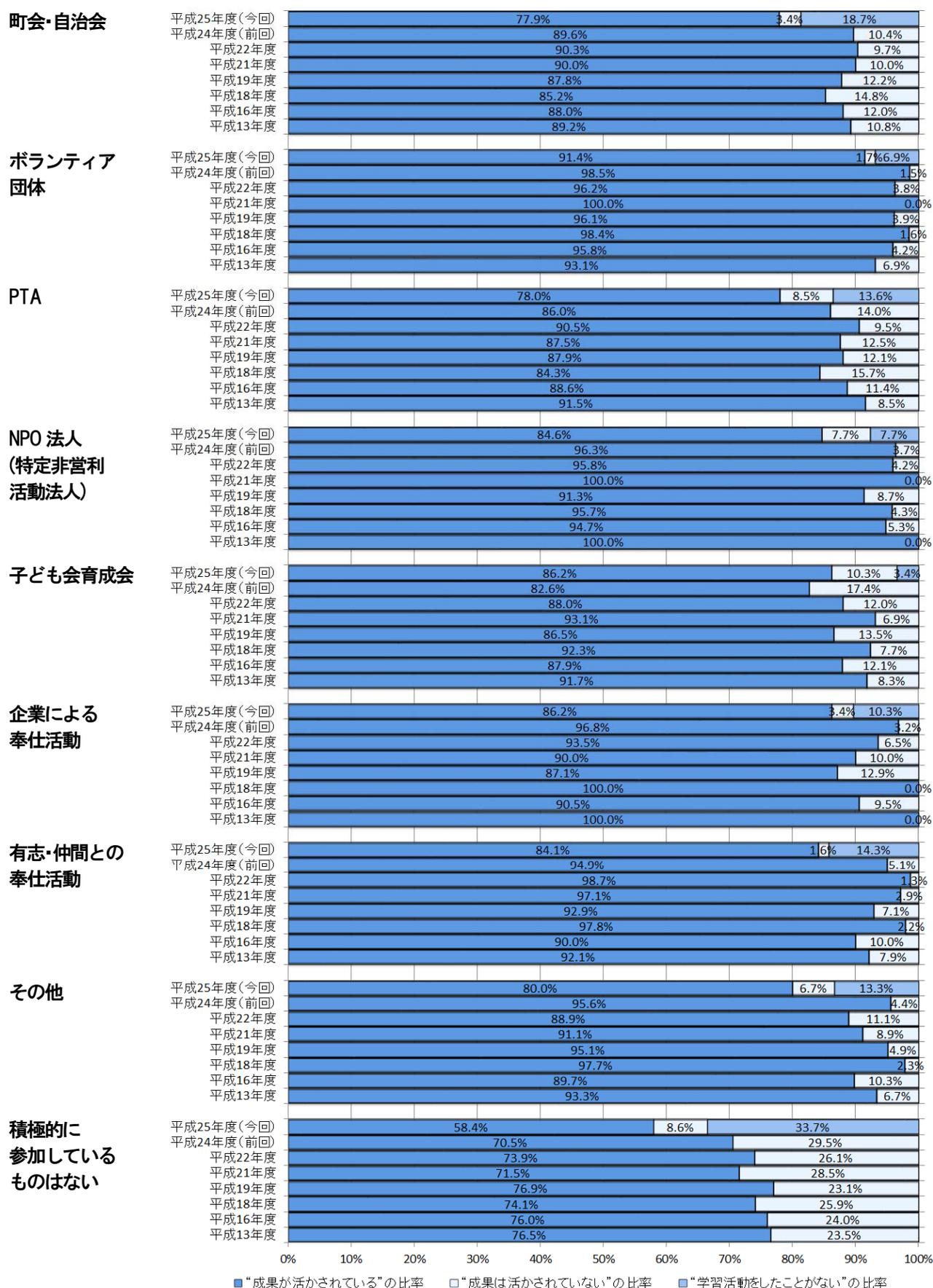
年齢別にみると、自主的に取り組んだ学習活動の成果が活かされていると感じている人は、全年代で減少しています。

【学習活動の成果×年齢】



地域活動への参加別にみると、前回調査と同様に何らかの地域活動に参加している人の方が、自主的に取り組んだ学習活動の成果が活かされていると感じている割合が高くなっています。

【学習活動の成果×地域活動への参加】



指標

スポーツを行なっている市民の割合

(1) 指標の説明

スポーツをすることで、身体・精神の両面に良好な影響を与え、ストレスの多い現代社会において人生をより豊かにします。そこで、スポーツの振興度合を把握するため、スポーツを行なっている市民の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・行動」

Q12 あなたは日頃、運動・スポーツをしていますか。(1つに○)

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1 現在も継続的にしている | 3 以前はしていたが、現在はしていない |
| 2 最近、始めた | 4 以前も、現在もしていない |

(3) 指標の現状

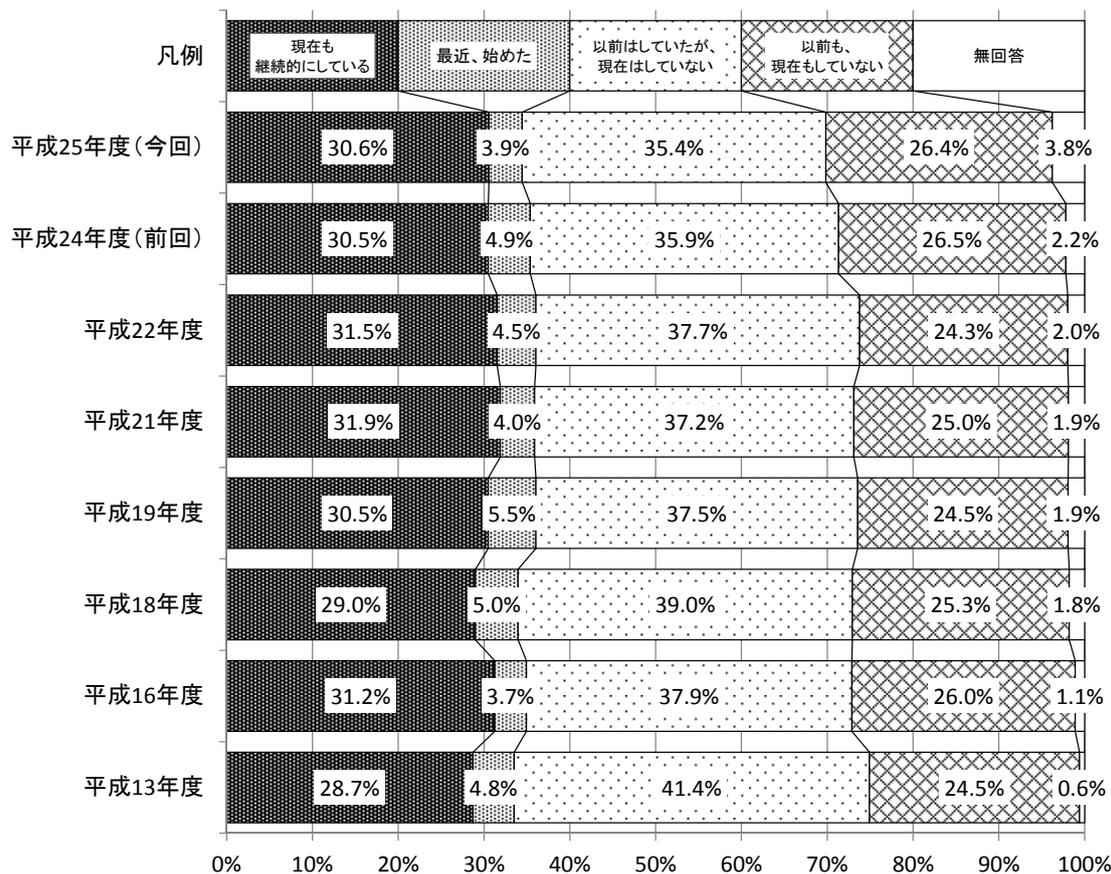
	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度
現在も継続的にしている	28.7%	31.2%	29.0%	30.5%	31.9%	31.5%	30.5%	30.6%
最近、始めた	4.8%	3.7%	5.0%	5.5%	4.0%	4.5%	4.9%	3.9%
計	33.5%	34.9%	34.0%	36.0%	35.9%	36.1%	35.4%	34.4%

(4) 指標の分析

☆日頃、運動・スポーツをしている人は34.4%

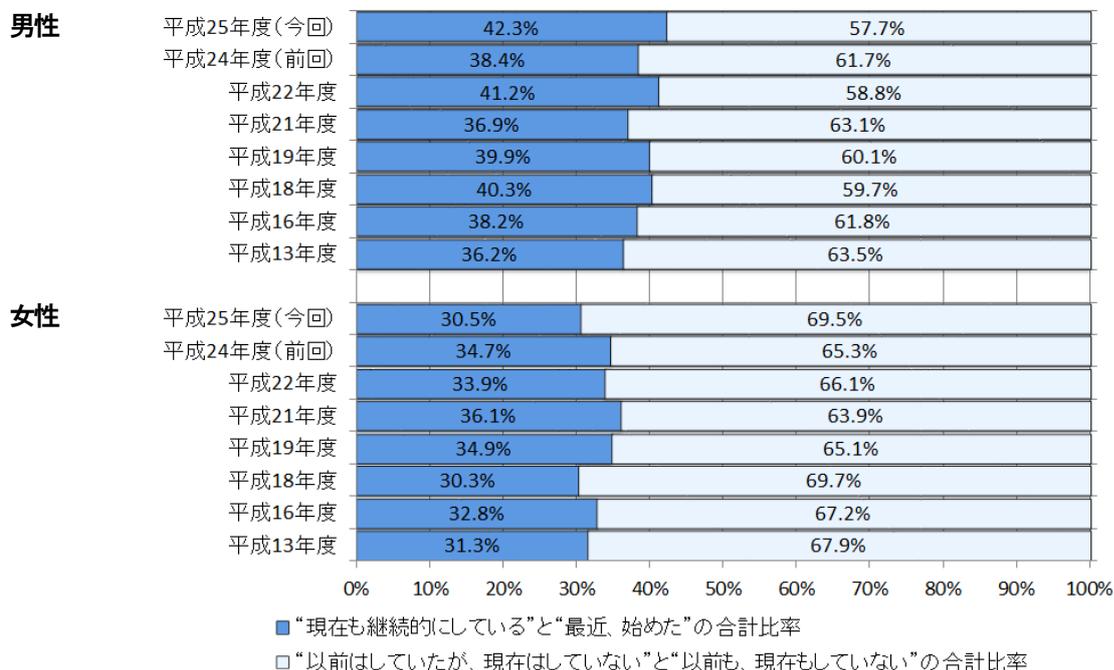
日頃の運動・スポーツの状況についてみると、“現在も継続的にしている”(30.6%)、“最近、始めた”(3.9%)という運動・スポーツをしている人の割合の合計は34.4%となっています。

運動・スポーツをしている人の割合は、前回調査に比べわずかに減少しています。



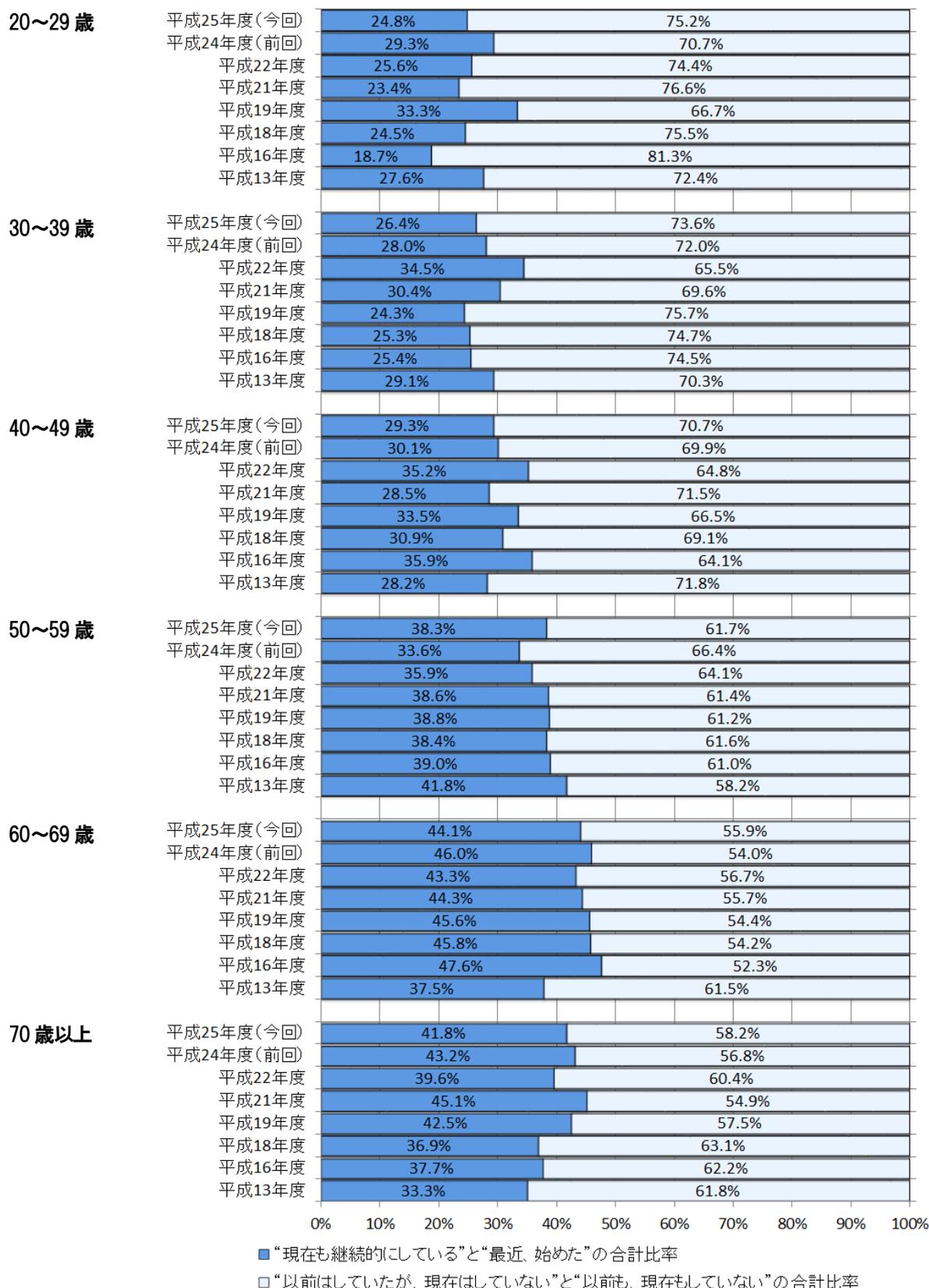
性別でみると、前回調査と同様に女性より男性の方がスポーツ活動をしている割合が高くなっています。

【スポーツ活動×性別】



年齢別にみると、40歳代、50歳代では、スポーツ活動を行っている人が3割前後であり、60歳代、70歳以上では4割を超えています。前回調査と比べ50歳代を除く全年代で、スポーツ活動を行っている人の割合は減少しています。

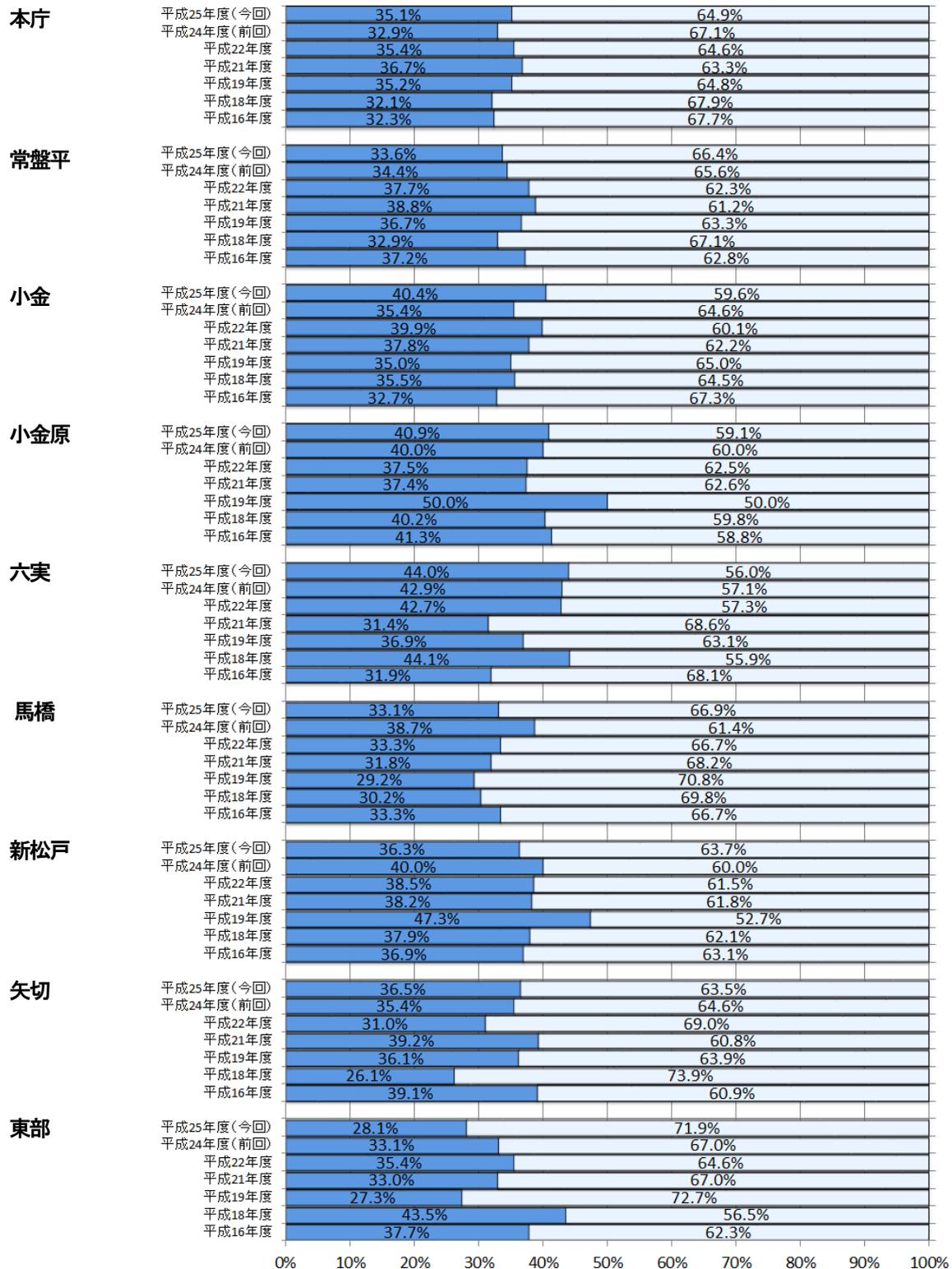
【スポーツ活動×年齢】



地区別にみると、スポーツ活動を行っている人は、六実地区、小金原地区、小金地区で4割以上となっています。

小金地区では前回調査に比べ、スポーツ活動を行っている人は35.4%から40.4%と5.0ポイント増えています。

【スポーツ活動×地区】



■ “現在も継続的に行っている”と”最近、始めた”の合計比率

□ “以前はしていたが、現在はしていない”と”以前も、現在もしていない”の合計比率

第3節 次代を育む文化・教育環境の創造

第3項 国際的な広い視野と平和を愛する心が育まれ、松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにします

めざしたい将来像：

平和を大切にし、松戸を愛する人を増やすため、日本人も外国人も皆が松戸の歴史や文化・伝統が身近に感じられる工夫をこらして、誰もが誇りのもてる”ふるさと松戸”を実現します。

指標

史跡や神社、仏閣など歴史・伝統文化遺産の満足度

(1) 指標の説明

松戸の歴史、文化身近に感じ、満足している人の割合を把握するため、史跡や神社、仏閣など歴史など・伝統文化遺産の満足度を指標にします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「地域・態度(評価)」

Q18-ス あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてどの程度満足しているかについて、次のア～タの各項目ごとに、あなたの考えに最も近い番号それぞれ1つに○をつけてください。

項目	十分満足している	まあまあ満足している	普通である	やや不満である	きわめて不満である	わからない
ス 史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産	1	2	3	4	5	6

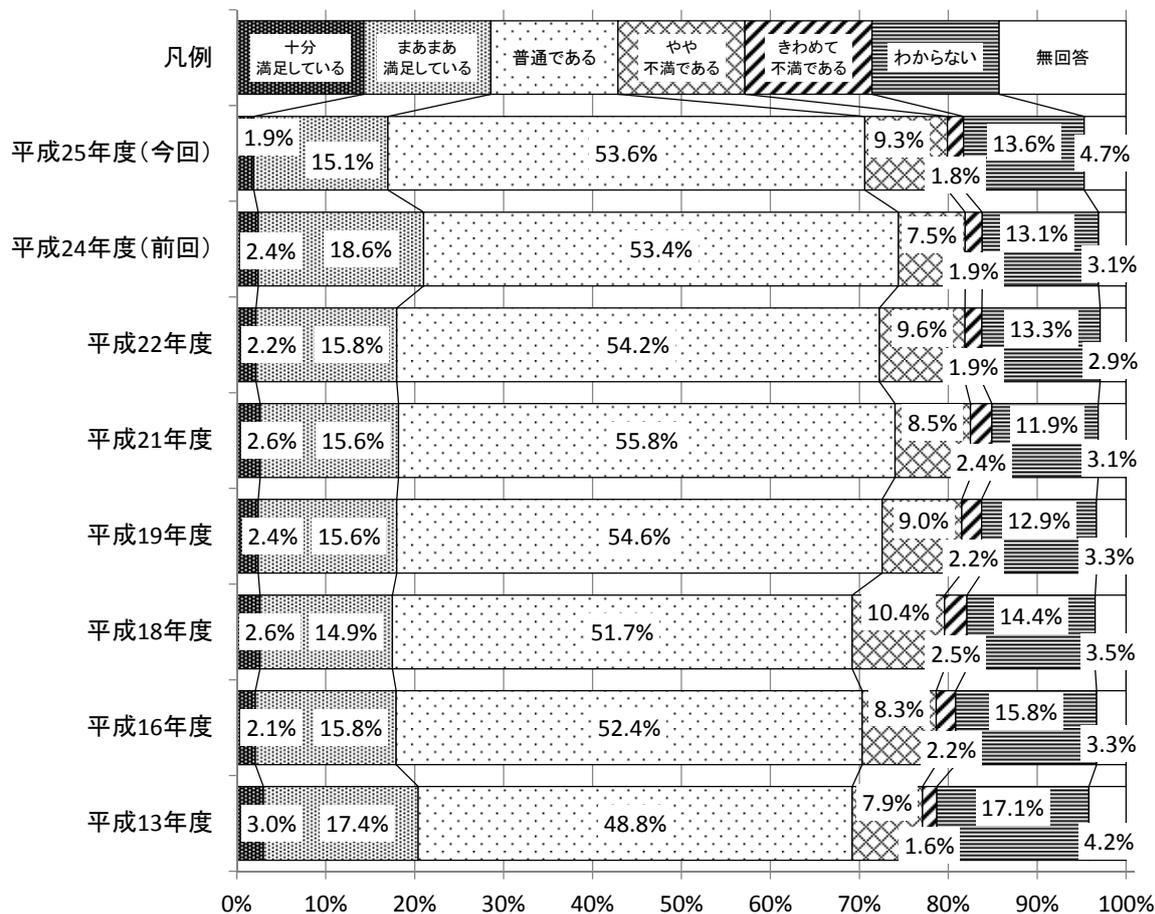
(3) 指標の現状

	平成13年度	平成16年度	平成18年度	平成19年度	平成21年度	平成22年度	平成24年度	平成25年度
十分満足している	3.0%	2.1%	2.6%	2.4%	2.6%	2.2%	2.4%	1.9%
まあまあ満足している	17.4%	15.8%	14.9%	15.6%	15.6%	15.8%	18.6%	15.1%
計	20.4%	17.9%	17.5%	18.0%	18.2%	18.0%	21.0%	17.0%

(4) 指標の分析

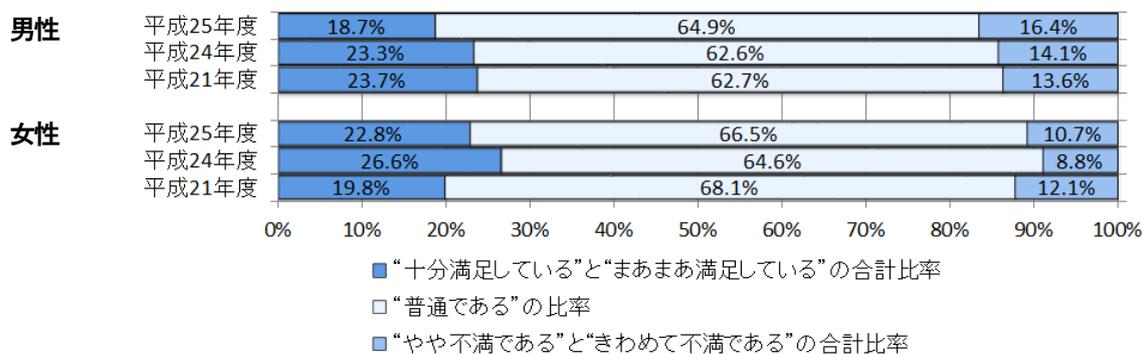
☆ 史跡や神社、仏閣など歴史・伝統文化遺産の満足度は2割未満

史跡や神社、仏閣など歴史・伝統文化遺産に満足しているという人は17.0%で前回調査に比べ4.0ポイント低くなっています。



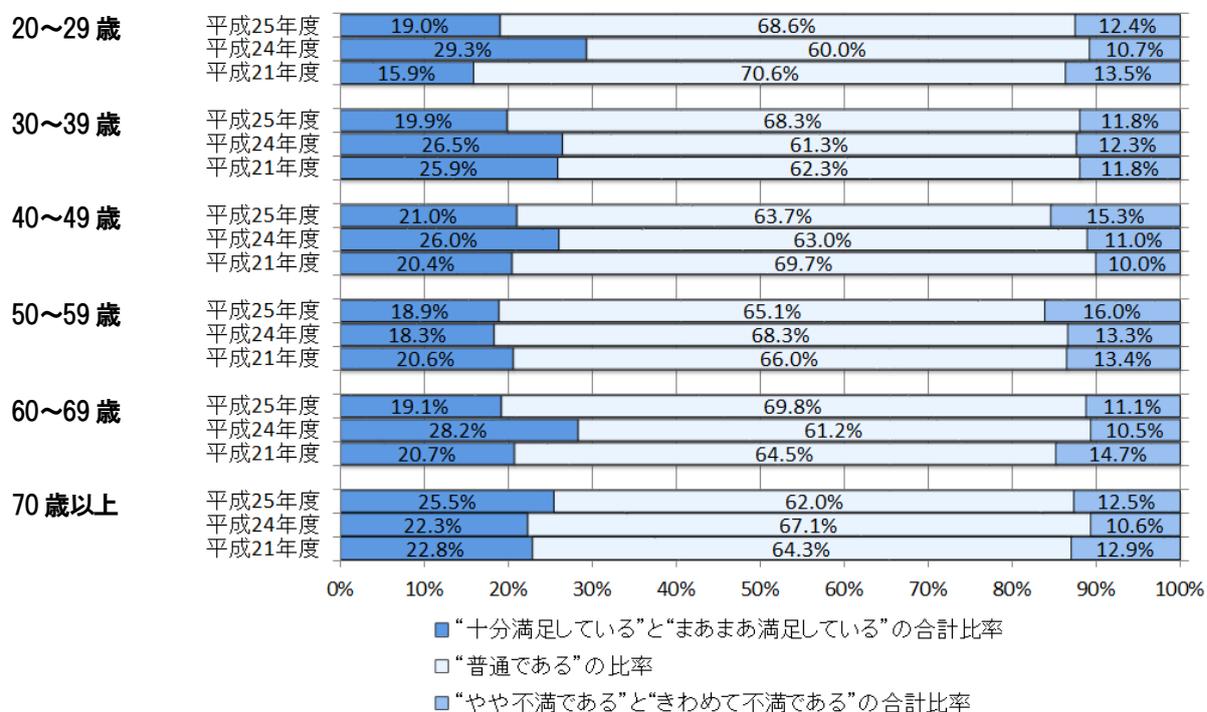
性別でみると、平成24年度調査に比べ満足している人の割合が、男性は23.3%から18.7%と4.6ポイント低くなっています。

【史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産×性別】



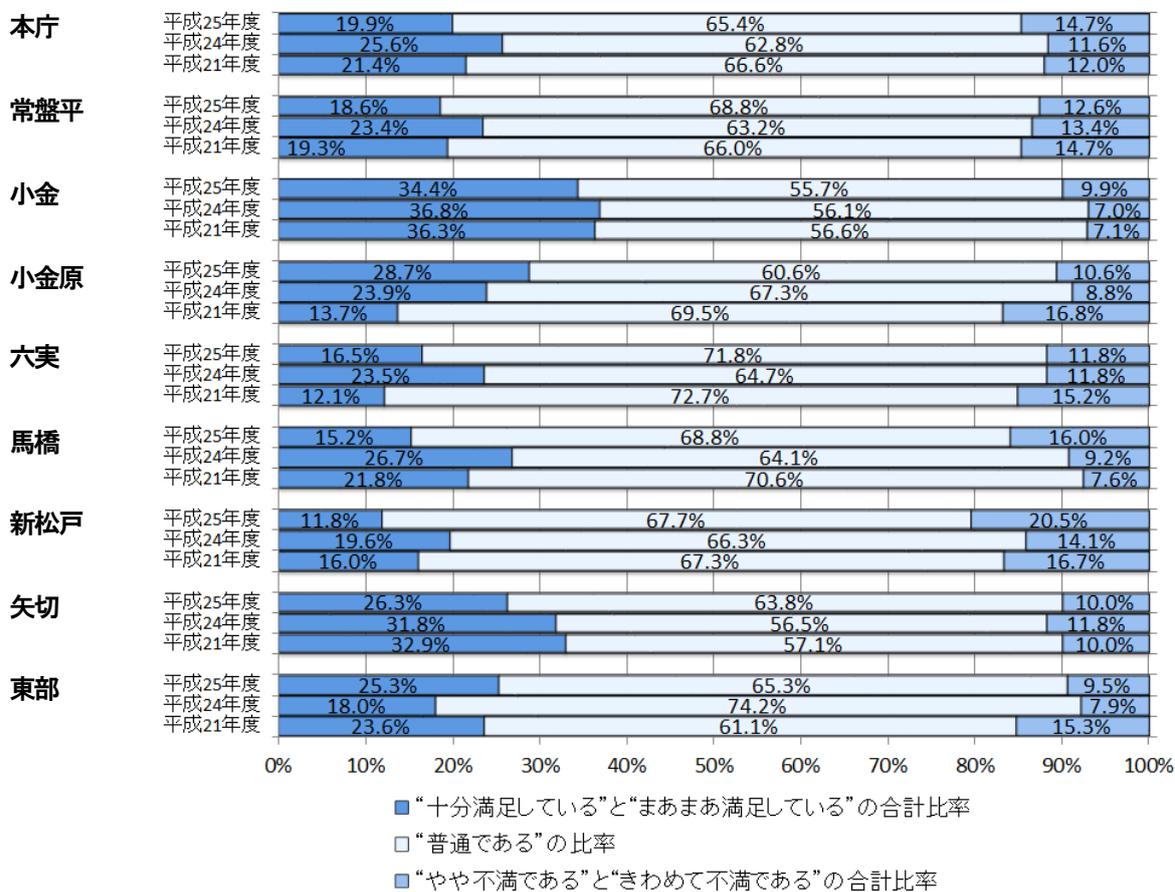
年齢別にみると、70歳以上と40歳代を除く年代で満足している人の割合は約2割弱となっています。平成24年度調査に比べ50歳代と70歳以上を除く年代で、満足している人の割合は5ポイントから10ポイント程度減少しています。

【史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産×年齢】



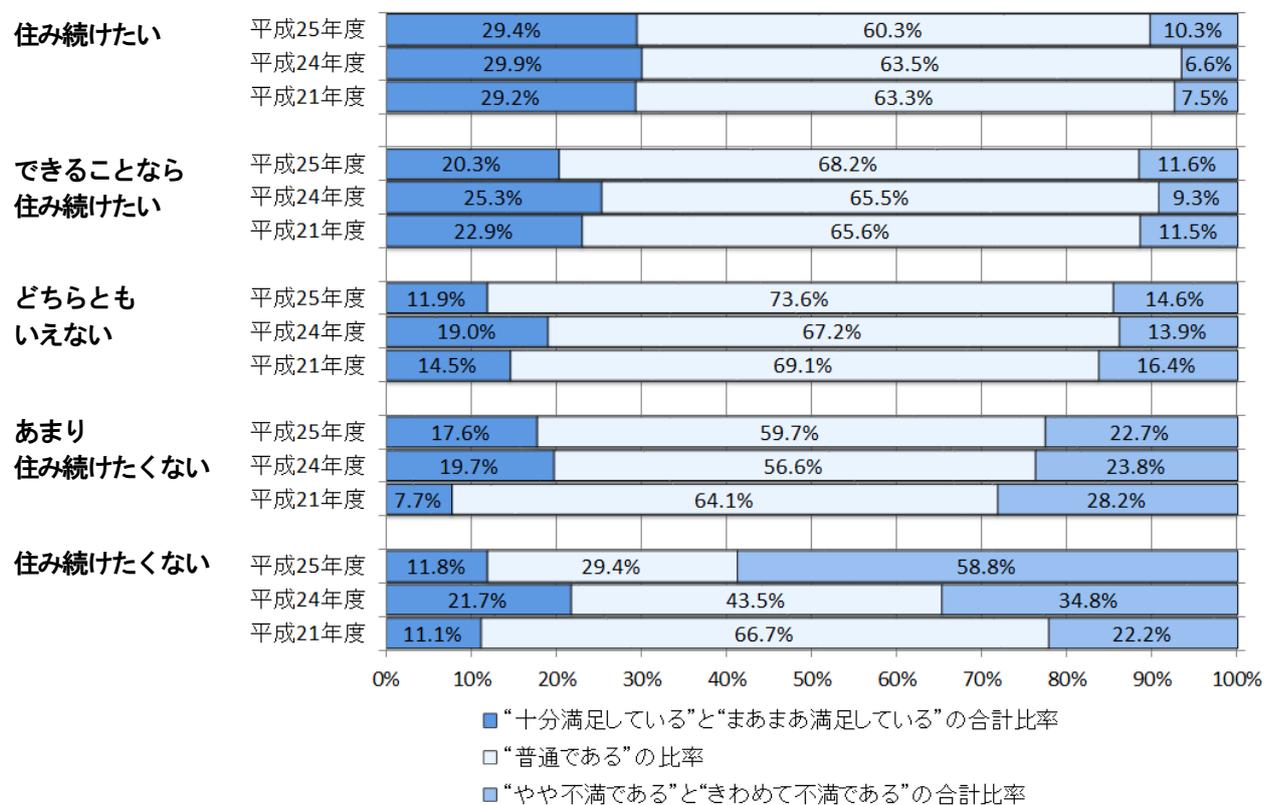
地区別にみると、平成24年度調査に比べ、東部地区で7.3ポイント、小金原地区で4.8ポイント、満足している人の割合が増えています。小金地区では、前回調査と同様に満足している人の割合が34.4%と他の地区に比べ高くなっています。

【史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産×地区】



定住意向別にみると、定住意向の高い人の方が低い人より満足している割合が高くなっています。

【史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産×定住意向】



指標

文化・芸術に親しむ市民の割合

(1) 指標の説明

市民が親しんだり活動したりしている文化や芸術には様々なものがありますが、市民の自主的活動や自ら創造的な活動をする市民が増えていくことを目指します。そこで文化・芸術に親しむ市民の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により創作や実践と鑑賞を区分して直接的に聞いています。「個人・行動」

Q13 あなたは日頃、絵画、音楽、映像、演劇などの芸術文化を鑑賞したり、創作や実践することがありますか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|-------------|
| 1 鑑賞し、自分でも創作や実践もしている | 3 時々鑑賞している |
| 2 よく鑑賞するが、自分では創作や実践はしない | 4 たまに鑑賞している |
| | 5 ほとんど鑑賞しない |

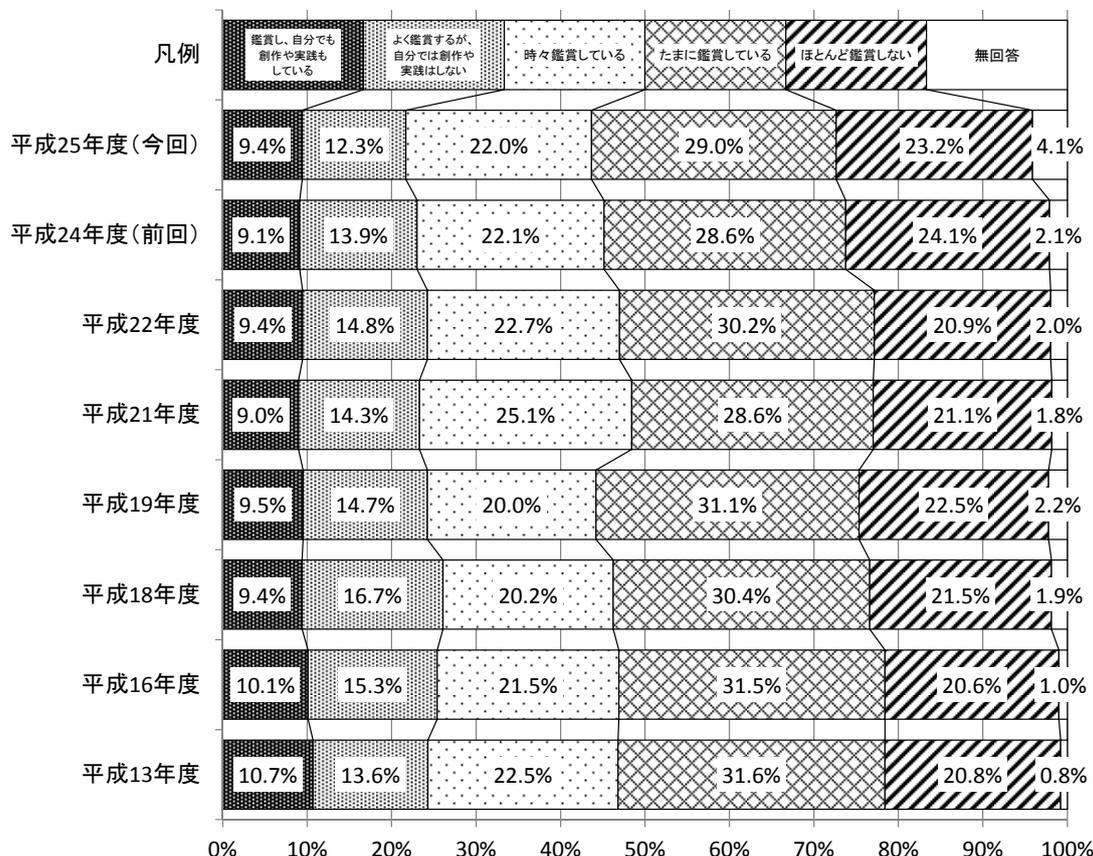
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度
鑑賞し、自分でも創作や実践もしている	10.7%	10.1%	9.4%	9.5%	9.0%	9.4%	9.1%	9.4%
よく鑑賞するが、自分では創作や実践はしない	13.6%	15.3%	16.7%	14.7%	14.3%	14.8%	13.9%	12.3%
時々鑑賞している	22.5%	21.5%	20.2%	20.0%	25.1%	22.7%	22.1%	22.0%
計	46.8%	46.9%	46.2%	44.2%	48.4%	47.0%	45.1%	43.7%

(4) 指標の分析

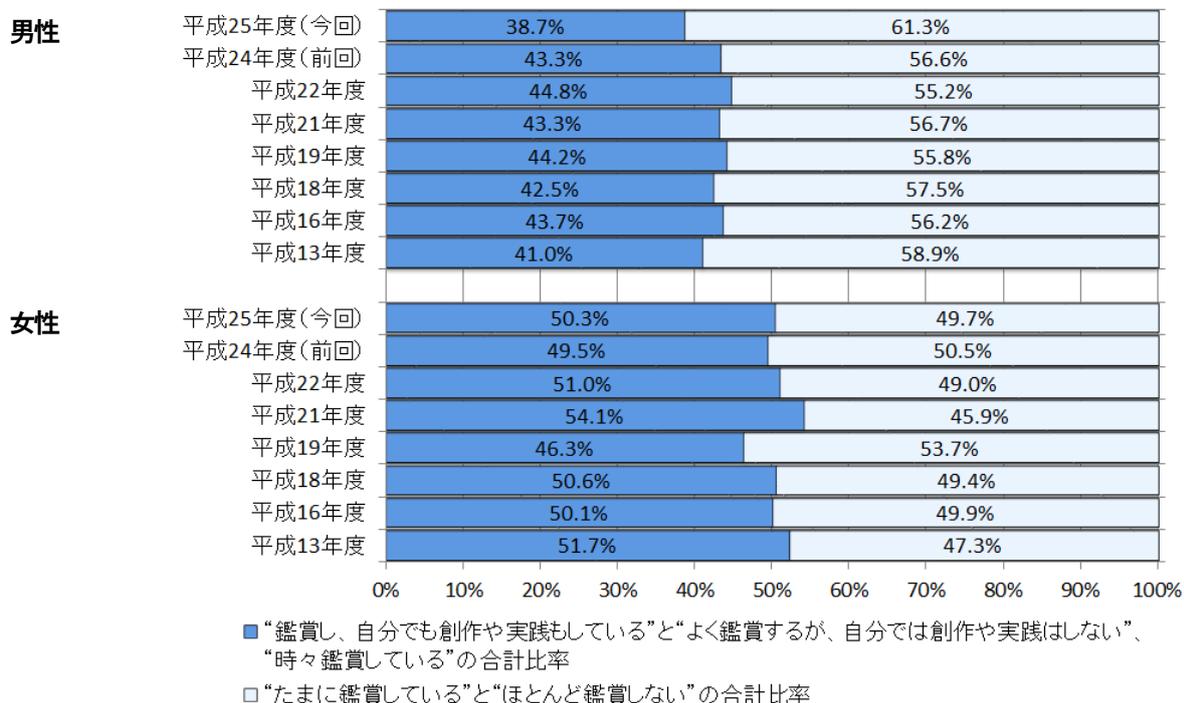
☆日頃、芸術・文化に親しむ人の割合は4割台でほぼ一定。

日頃、芸術・文化に親しむ人の割合は、“鑑賞し、自分でも創作や実践もしている”(9.4%)、“よく鑑賞するが、自分では創作や実践はしない”(12.3%)、“時々鑑賞している”(22.0%)を合わせた割合は 43.7%と、前回調査の45.1%に比べわずかに減少しています。



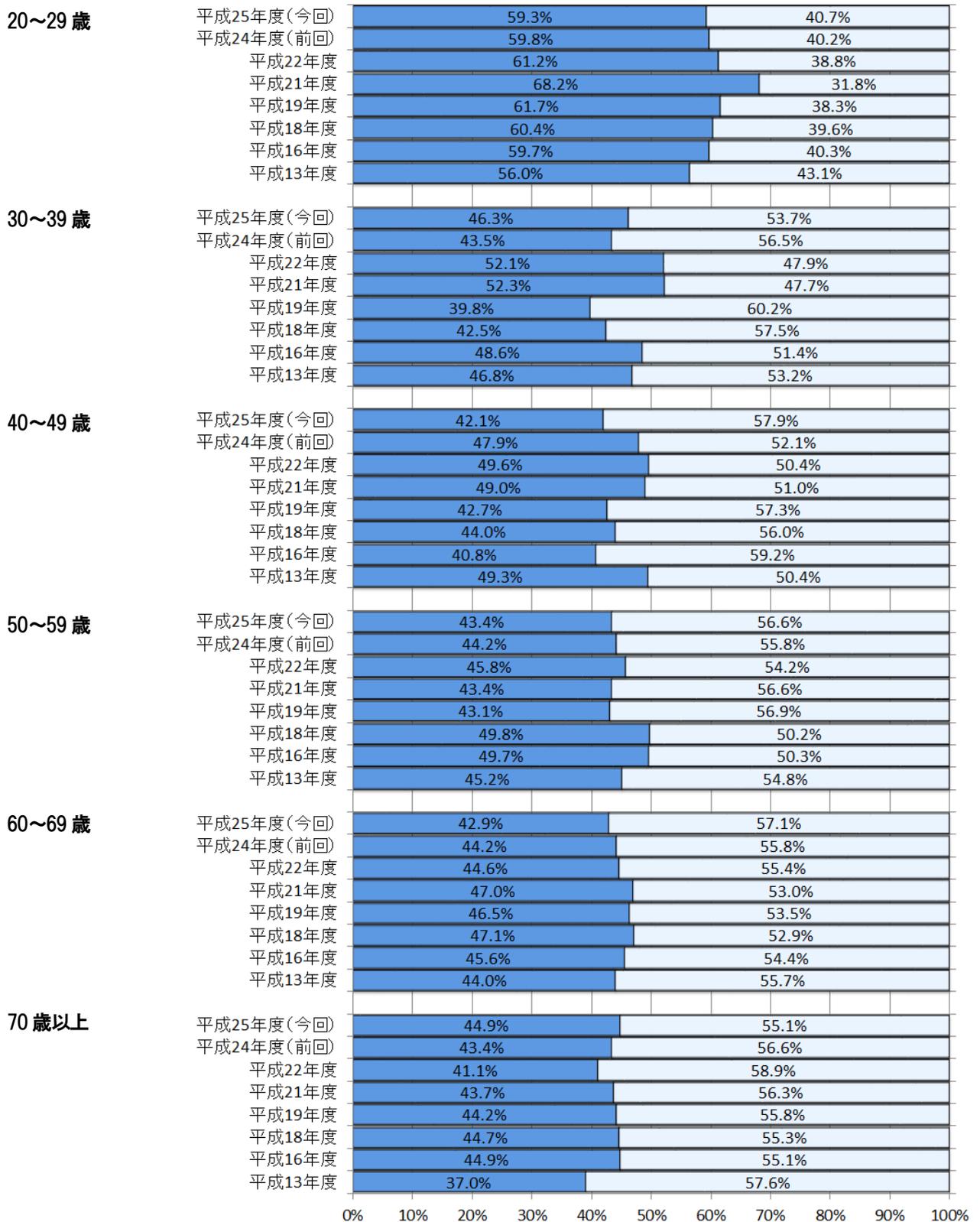
性別にみると、男性よりも女性の方が“鑑賞している”人の割合が高く、前回調査と同様の傾向となっています。

【文化・芸術活動×性別】



年齢別にみると、“鑑賞し、自分でも創作や実践もしている”と“よく鑑賞するが、自分では創作や実践はしない”、“時々鑑賞している”を合わせた文化・芸術活動に積極的な人は、20歳代で59.3%と、他の年代に比べ割合が高くなっています。前回調査と比べ40歳代で47.9%から42.1%と5.8ポイント減少しています。

【文化・芸術活動×年齢】



■ “鑑賞し、自分でも創作や実践もしている”と“よく鑑賞するが、自分では創作や実践はしない”、“時々鑑賞している”の合計比率
 □ “たまに鑑賞している”と“ほとんど鑑賞しない”の合計比率

指標

外国籍市民と交流している人の割合

(1) 指標の説明

外国籍市民と交流する人達が増えることにより、日常生活の中で様々な不安やトラブルが減少すると考えられます。そこで、外国籍市民と交流している人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・行動」

Q14 あなたは日頃、松戸市に在住したり、滞在したりしている外国の方達と親しく接することがどのくらいありますか。(1つに○)

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1 大変よくある | 3 ときどきある | 5 ほとんどない |
| 2 しばしばある | 4 あまりない | |

(3) 指標の現状

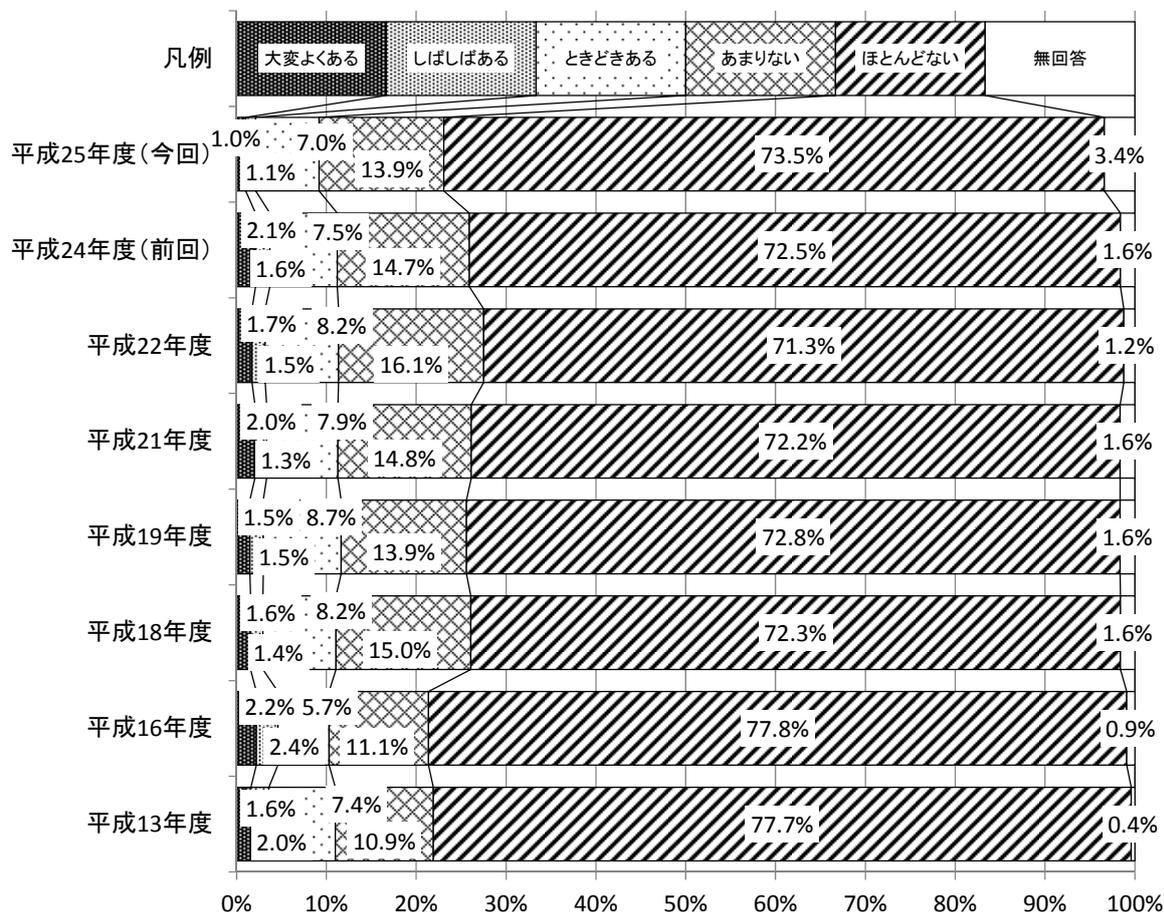
	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度
大変よくある	1.6%	2.2%	1.6%	1.5%	2.0%	1.7%	2.1%	1.0%
しばしばある	2.0%	2.4%	1.4%	1.5%	1.3%	1.5%	1.6%	1.1%
計	3.6%	4.6%	2.9%	3.0%	3.3%	3.2%	3.7%	2.1%

(4) 指標の分析

☆外国籍市民との交流機会があるという回答は、前回調査に比べ減っています。

外国籍市民との交流について“大変よくある”(1.0%)、“しばしばある”(1.1%)という頻繁に交流を持っている人は2.1%で、前回調査に比べ減っています。

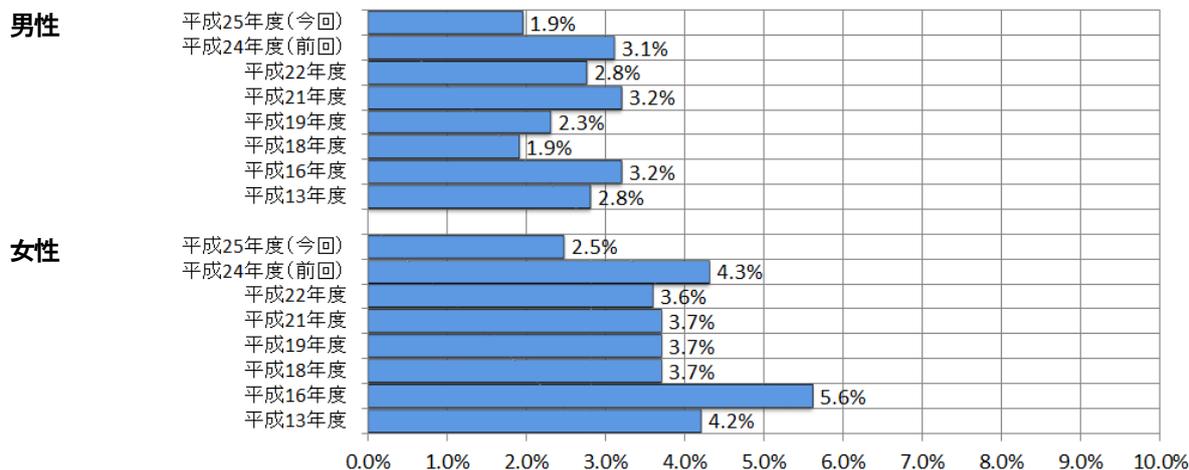
逆に交流を持たない人は“ほとんどない”(73.5%)と“あまりない”(13.9%)をあわせると、9割近くとなっています。前回調査と同様に約9割の人は外国籍市民との交流機会がないものと思われます。



性別で見ると、男性よりも女性の方が外国籍市民との交流がある人の割合が高くなっています。

【外国籍市民との交流×性別】

〔“大変よくある”と“しばしばある”の合計比率〕



年齢別にみると、外国籍市民との交流があるという人の割合は30歳代が最も高く3.0%となっています。

【外国籍市民との交流×年齢】

〔“大変よくある”と“しばしばある”の合計比率〕

